

実践レポート

単元・題材名 (授業名)	湯呑みの製作	生 徒	窯業科1年生徒8名
		場 所	窯業実習室
日 時	平成29年12月13日(水)6～7校時	指 導 者	T1:内田 T2:中市 T3:飯嶋

① 互恵的な相互依存関係

学校祭終了から取り組んでいる立体物（湯呑み）は、1学期から基礎として取り組んできた平物と違い、多くの道具を使用した技術を身に付けさせるために、工程を細分化し繰り返し練習する中で生徒同士が伝え合うことで、更に成長できるよう提示した。学校祭のアンケートからも湯呑みやコーヒークップに対するリクエストが多く寄せられていたことを踏まえ、2月3学年の販売実習や3月2年生の販売実習に1年生から湯呑みを納品することを共通目標とし、2年生になる上で身につけなければいけない準備としての題材と位置づけ意欲の向上につなげる。

② 対面的なやりとり

2台の作業台に4人ずつ能力的に均衡するように分かれそれぞれを班とし、大きく2つのチームで作業や清掃活動ができるように構成した。技術差は見られるが班内で相談し課題を明らかにし、解決するための話し合いや確認をする場面を設定したが、初めは手順や道具の使い方を覚えることで精一杯だったが技術を身に付けはじめたことで、仲間のことにも気にすることが見られるようになった。

③ 個人としての責任

今単元は3学期からの量産体制を意識すると、流れ作業とすべきだが、現時点では今後の流れは伝えず1人で全工程に責任を持って製作できるよう、時間をかけて指導した。清掃活動では、班内で役割を分担したり声を掛け活動することに課題があるため、班長を中心とし清掃担当を自主的に分担するなど見通しを持ち明確な活動となるよう提示した。

④ 協同学習スキル

実習室内のカレンダーに目標となり得るコーヒークップがあり、自分が作ってみたい形や色などのデザインをイメージさせ、工程における工夫点や難易度について話し合う場面を持った。その際、自分の好み（視点）ではなくお客さんの立場に立った物づくりを意識させることで、掲示してあるカレンダーのデザインを見る視点が変わり製作意欲が感じることができた。

⑤ チームの振り返り

毎回の到達レポートを通じ、現時点で各工程で使用する道具の操作の仕方や課題を確認し振り返ることを行った。文書にまとめることや言葉でまとめることに課題がある生徒がいるが、班で助け合いながら次回に向けた課題や目標を確認することができていた。

1 学年 窯業科 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	湯呑みの製作	生 徒	窯業科1年生徒8名
		場 所	窯業実習室
日 時	平成29年12月13日(水)6・7校時	指 導 者	T1:内田 T2:中市 T3:飯嶋

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・張り合わせ(立体)の技術を身につける。

(2月校内販売会「3学年」、3月販売実習「2学年」への製品の納入を目指す)

(本時の目標)

- ・製作手順を覚え道具の操作を身に付けることができる。
- ・班長や指導者に対し報告、相談など必要なコミュニケーションをとることができる。

2 生徒について

- ・能力に差は見られるが作業学習に興味を持って意欲的に取り組むことができる。
- ・準備、後片付け、清掃など周りとコミュニケーションを取りながら活動することに不安定な面が見られる。
- ・片付けや清掃など意欲的ではあるが、製作終盤になると集中力に欠ける生徒がおり、影響を受けてしまうことがある。

3 指導計画

- 第1回 11月29日 : 底板の作り方
 第2回 11月30日 : よりの作り方
 第3回 12月 7日 : 測板の作り方、合わせ方
 第4回 12月 8日 : 組み立てと口の切り方
 第5回 12月13日 : 成形(本時)
 第6回 12月14日 : 成形(仕上げ)

4 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 15分	・挨拶 ・本時の説明	・日直が号令を行う。 ・本時の説明を聞く	・本時の目標を伝える。 ・到達レポートを再確認し、本時取り組むにあたって、重点的に練習するところを伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・全体や班で目標を共有できるよう振り返り本時の目標を確認する(①)	・黒板 ・到達レポート用紙

展開 50分	・ 班に分かれ 準備	・ 作業台のメンバー内で 協力して準備する。	・ 各作業台の準備状況を確認し必 要な助言をする。(T1・3)	・ ロクロ ・ 粘土 ・ 雑巾 ・ ボウル ・ トースカン ・ ドベ ・ タタラ板 ・ 延べ棒 ・ 布 ・ 型 ・ 成形小道具
40分	製作	・ 各工程において準備が できた時点で班長の周 りに集まりポイントを 確認する。 ①底板づくり ②張り合わせ ③底板、側板接着（より） ④内側成形 ⑤外側成形	<協同学習の要素や配慮事項> ・ 班長を中心に手順を確認し再度 見本を示すなどポイントを押 さえてから練習に取り組む。 (②) <協同学習の要素や配慮事項> ・ T1 は自信がなく確認や指示が ないと判断できない生徒。T3 は確認がないまま工程を進ん でしまう生徒にサポートを行 う。(③) ・ T2 は生徒の望ましい言動や関 わり方をする生徒に対し褒め たり関わり方のアドバイスを する。(④)	
40分	片付け、清掃	片付け、清掃を行う。	・ T1、T3 は清掃の仕方の様子を観 察し必要な助言や指示を出す。 ・ T2 は生徒同士のやり取りやコミ ュニケーションの仕方に助言や 指示を出す。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 清掃する際、班、班以外のメン バーと状況を見ながら適切な 言葉がけ（依頼）を行ってコミ ュニケーションがとれている か褒めたり、助言しアドバイス を行う。(④)	
整理 15分	・ 振り返り（班） ・ 発表（班長） ・ 教師からの講 評。 ・ 次時の予告 ・ 挨拶	・ 各班で課題や進捗状況 を班長中心に確認し到 達レポートで振り返り 記入する。 ・ 班長は次回注意するポ イントを簡潔に発表す る。 ・ T1、T2、T3 の話を聞く。 ・ 次回の内容を知る。 ・ 日直の号令	・ T1 は班で確認したら到達状況を プリントに簡潔に記入するよう 促す。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ T1 は班長が伝えたいと思っ ていることを的確に言えない場 合には、言い換えたり補足した りし発言を促す。(⑤)	・ 到達レポ ート

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

「製作手順を覚え道具の操作を身に付けることができる」という目標を設定した。1学期からの皿作りがイメージにあるのか、これまでの授業の様子では、「簡単にできる」というような思いが見え隠れする。皿作りに比べ作業工程や、使用道具も3倍以上に増え、実際に取り組んでみると、時間がなく最後の工程まで行けず形として残らないというのが現状である。また、今回はできた工程が今日ではできないといった状況があり、手順や道具の使い方をしっかりマスターすることが必要となる。

② 対面的なやりとり

本単元では、班長にはこれまでの様子から器用で目的意識の高い生徒を置き、力の同程度の生徒を各班に分けて構成することにより、班長を中心とした準備、作業、振り返り活動がスムーズになるように設定した。教員は生徒同士で伝える際に明確な言葉に置き換えたりするなど必要な助言などを行う。

③ 個人としての責任

各工程の活動の前に各班で集まり注意するポイントなど、見本を含め確認してから作業を行うようにした。作業の終わりには、到達レポートに指導者が各工程の可否についてチェックしているので、次回の作業の目標として個人が取り組む内容を明確にした。

④ 協同学習スキル

湯呑みを製作するにあたり、各工程では道具を使い分け順序立てて整理しながら作る。また、仲間の出来具合と比較し改善ポイントややり方など聞きたい情報を仲間に的確な言葉で聞いたり、伝える。教員は必要に応じて生徒同士の話し合いが円滑に進むようポイントを言葉で具体化するような助言する。

⑤ チームの振り返り

毎回、到達レポートをまとめ課題や進捗過程を振り返り確認するように行った。課題となる所が毎回確認できることで次回の取り組むポイントを明確し意欲を持たせる。

6 指導の効果

班長を中心とし生徒間で「質問する」「伝える」ということは、まだ不十分ではあるが随所に見受けられた。また、到達レポートを用いたことで、前回と今回の出来の違いや現在の到達度を確認しながら作業を進めることができた。

7 今後の課題

2学期までは道具を「扱う」という状況でしたが、今単元（立体）からは粘土の状態を見て道具を「操作」し作るということに、技術的には高度になるので時間をかけ指導する。

参観者アンケートから、仲間同士の話し方（言葉遣い）、関わり方（教え合い、助け合い）など学習する上で大切なコミュニケーション能力を向上させるよう改善したい。

※ 授業を振り返って

各班には技術的に能力の高い生徒を班長としたが、班長自身も不安要素が多くあったため周りに目を向ける余裕がなく自信をもって他の生徒に教える場面は少なかったが、できる範囲で班員と関わることはできていたと思います。

今単元は始まって間もないこともあり、道具の準備や手順など覚えることも多く、これまで学習してきた同じ内容の所にも戸惑いが見られるなど、丁寧に指導することが必要だと改めて感じました。3学期からの作業では再度一人で湯呑みを完成させられるように手順や道具の操作について確認し取り組みたいとおもいます。

実践レポート

単元・題材名 (授業名)	立体物の製作 「湯呑みづくり」	生 徒	窯業科1年生徒8名
		場 所	窯業実習室
日 時	平成29年12月14日(水)5～6校時	指 導 者	T1:内田 T2:中市 T3:飯嶋

① 互恵的な相互依存関係

作業の前半となる道具の準備や製作手順については、授業を重ね、到達レポートにより課題や到達状況を互いに確認しあうことで進捗状況が明らかになりポイントを絞って取り組むことができた。また、班長の自覚も出てきたことにより、班員に対する言葉掛けなどスムーズに取り組めるようになり、仲間と協力し清掃や片付けなどの時間が短縮できたことで作業の時間が5分程度確保することができると自覚することができた。

② 対面的なやりとり

2つの班に分かれ班長を中心に製作や片付けなどができるように取り組んできた。技術的な部分では班長にも技術的なことを伝える余裕がなく、周りのことまで意識できるレベルには至っていなかったが、繰り返し道具の扱い方について支援を行うことで、徐々に余裕が現れ班員にポイント等を伝える場面が見られるようになってきた。

言葉遣いについても、生徒同士で適切な言葉遣いできていないことが見られるため、再度、班長を中心に仲間とコミュニケーションをとることや技術面で助け合うことの大切さを確認する。

③ 個人としての責任

作業の終わりにまとめている「到達レポート」は全工程への見通しを確認することや現時点の習得状況の確認、次回の目標を再確認することができた。現時点では、4人が全工程を一人で作ることが見込まれ、残りの4人は分業となる。3学期からは、量産を意識した分業となることを見据えつつ少しでも一人で作れる工程が増えるよう引き続き指導する。

④ 協同学習スキル

製品を作る上でお客様に満足して使ってもらうために、品質の向上を目的とし職員にモニターとなってもらい色や形、大きさなど製品と一緒に意見を書いていただくプリントを直接手渡しの際、普段から取り組んでいる「正しく論理的に伝える」ことができるよう事前学習する。

後日、回収したアンケートの意見を参考に反映するよう班（個人）で交流する。

⑤ チームの振り返り

班や仲間と自分の作った湯呑みを鑑賞したり比較したり、更に良くするために工夫できることなどを話し合う場面を持つことができなかった。今後は班の再編成や話し合いの時間の確保、上手に作った生徒の湯呑みを見合うなどの場面を増やし意識の向上を図る

実践レポート

単元・題材名 (授業名)	今金中学校交流学习（作業学習） ～仕事を教える～	生徒	産業科3年生徒5名
		場所	窯業実習室
日時	平成29年7月18日(金)2～4校時	指導者	T1:亀田 T2:穴田

① 互恵的な相互依存関係

時間内に釉がけから修正までを中学生に教えるという目標を設定した。窯業室1と2でそれぞれ10名ずつ中学生を担当したうえで、さらに個人の担当を決めることにより、自分のことだけでなく周りの状況を見ながら動かなければ目標が達成されない状況を設定した。当日は生徒5人に対して中学生が21人という状況だったこともあり、数名の生徒は隣の作業室の状況も確認するなど周りの状況を見ながら作業を行うことができていた。一方で、生徒によっては事前準備を人任せにしたり、積極的に役割を引き受けられないなど目標達成に対する意識の差が見られたことが今後の課題となる。そのため次回までには全体の仕事量と個人の仕事量を視覚的に提示することで自分から行動することに対する意識の向上につなげる。

② 対面的なやりとり

全体で話し合う時間を設け、誘導、全体説明、最初と最後の挨拶などの役割分担、効率の良い進め方を考えさせた。また、各作業室のグループごとに話し合う時間を設け、必要な物や道具の配置などを決めさせた。また、作業室ごとに行う全体説明の際には、他のグループの生徒の分かりやすい説明の仕方や、グループでの協力方法など良い部分を取り入れて改善することができた。

③ 個人としての責任

それぞれの生徒が担当する釉薬を決め、釉ときから修正までの行程を担当する中学生に教えさせた。その際、生徒の実態に合わせて担当する中学生を1名から6名まで調整した。また誘導係、全体説明、挨拶などの役割もあるため、生徒の実態に合わせて意図的に役割の量を調整した。しかし、当日は本校生徒に欠席者が出たため一人一人が負担する仕事量が増えてしまったが、自分に自信がないことを理由に役割を積極的に引き受けられない生徒がいた。そのため次回までに全体の仕事量と個人の仕事量のバランスや状況を視覚的に提示することで、自ら行動することに対する意識の改善につなげる。

④ 協同学習スキル

各作業室の代表者が対象となる中学生の前で工程を実演する際に、同じグループの仲間が必要なフォローをするなど、他の人のためにできることは何かを考えて動くように指導した。また、釉がけや修正の方法を教えるときに専門用語を使わずに説明するなど、初めて聞く人に説明する際にふさわしい言葉を考えさせた。本番前に練習、反省をしたことで言葉や言い方を改善して本番に臨むことができた。また、知らない人積極的に話すことが苦手な生徒も会話することができた。一方で知らない人との交流を通して、自然な会話の仕方や間の取り方などコミュニケーション面の課題に気付かせることができた。

⑤ チームの振り返り

ワークシートを使い、個人の振り返りを行った。T1、T2はうまくできたところや課題となる部分を生徒に伝えたことで、より効率よく作業を進める方法や、コミュニケーション面での課題を意識させることができた。このワークシートの内容をもとに次回の課題を明確にして学習に取り組むようにする。

3 学年 産業科 作業学習指導案

単元・題材名 (授業名)	輪花皿 釉がけ・修正	生 徒	産業科3年生徒6名
		場 所	窯業実習室
日 時	平成29年8月25日(金)2～4校時	指 導 者	T1:亀田 T2:穴田

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・学校祭に向けて生産品を作成する。

(本時の目標)

- ・輪花皿58枚の釉がけと修正を協力して時間内に終わらせることができる。
- ・報告・連絡・相談など必要なコミュニケーションをとることができる。

2 生徒について

- ・今後の進路の希望として一般就労を希望する生徒が3名、就労移行を希望する生徒が3名、福祉的就労を希望する生徒が1名いる。
- ・指示された仕事を確実にを行うために報告・連絡・相談をすることを徹底しており、徐々に習慣化している。
- ・見通しを立てることに日常的に取り組んでいるが変更点や新しいことに対応することが難しい。

3 指導計画

第1回 8月25日 : 輪花皿の釉がけ、修正 (本時)

第2回 10月16日 : 大皿の釉がけ、修正

4 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 15分	・挨拶 ・本時の説明	・日直が号令を行う ・本時の説明を聞く。	・本時の目標を伝える。 「輪花皿58枚の釉がけと修正を時間内に終わらせる。」 「報告・連絡・相談など必要なコミュニケーションをとる。」 <協同学習の要素や配慮事項> ・前時よりも題材となる製品数を増やし、個人の働きだけではクリアできない課題を設定する。(①) ・黒板を使ってグループ・個人・全体に関わる仕事を説明する。	・黒板 ・ネームカード ・見本の皿
	・グループ分け	・作業グループを知る。		

			<協同学習の要素や配慮事項> ・積極的な発言の少ない生徒同士や普段あまりコミュニケーションをとっていない生徒同士でグループを構成する。(②) ・黒板に組織図を書き、仕事流れを示すことにより、個人の役割だけでなく、協力して仕事をしなければ目標が達成されないこと説明する。(⑬)	
展開 125分	・グループ内での役割分担 ・同じ作業グループでの話し合い ・準備 ・釉がけ修正 ・清掃	・グループ内で釉がけを行う生徒と修正を行う生徒を決める。 ・釉がけ班と修正班に分かれて誰が何を用意するのか、作業の順番、全体での清掃の時間などの必要な打ち合わせを行う。 ・話し合った内容をもとに準備を行う。 ・作業を開始する。 ・釉がけ班は釉ときから始める。 ・修正班は T2 から作業の説明を受ける。 ※授業の途中で帰る生徒は教師や仲間に必要な報告や連絡をする。 ・清掃を行う。	・ T1 は、話し合いの時間を設定する。 ・ T1、T2 は話し合いの様子を観察し、必要なサポートを行う。 <協同学習の要素や配慮事項> ・自分の得意、不得意を含めチームとして効率よく作業するための役割を自分たちで選び、それぞれの役割に責任を持つ。(③) ・必要な情報は、状況に応じて仲間や教師に自分から聞きに行くように促す。(④) ・ T1、T2 はうまく考えを伝えられない生徒の言葉を言い換えるなどサポートする。(配慮⑨) ・ T1 は作業の様子を観察し、必要な助言をする。 ・ T2 は釉薬のはがし方を教える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ T1 は指示がないと次に何をしたいのか判断できない生徒に必要な助言や指示を出す。T2 は作業が苦手な生徒が慣れるまで技術面のサポートを行う。(配慮③) ・ T1、T2 は生徒の望ましい言動や失敗したことに関してタイミング良く生徒に伝えて褒めたり、アドバイスをする。(配慮⑩) ※T1 は必要な必要な報告や連絡ができていないか確認する。 ・ T1、T2 は清掃の様子を観察し、必要な助言や指示を出す。	・ 釉薬 ・ 釉薬はさみ ・ ボーメ計 ・ バケツ ・ 新聞紙 ・ 刷毛 ・ スポンジ ・ スポイト ・ ぞうきん ・ 製品棚 ・ ぞうきん ・ バケツ ・ 掃除機 ・ ダスタークロス ・ ほうき

整理 10分	・ 整列	・ 窯業室前方に集合し、整列する。	・ T1 は生徒が揃ったことを確認する。	
	・ 振り返り	・ 代表者は作業の目標「輪花皿 58 枚の釉がけ・修正を行う」に対する結果を T1 に報告する。 ・ 自分の働きを振り返り、改善点を発表する。	・ T1 は、目標「輪花皿 58 枚の釉がけ・修正を行う」の結果について代表者に質問する。 ・ 「今日、意識したことは何か」、「その結果どうだったか」を個々に発問する。次に、個々の生徒が意識したことに応じて「自分が与えられた役割をやりきることができたか」、「周りのためにしたことは何か」など質問内容を変更しながら生徒に発問する。最後に、次回に向けた改善点を考えついた生徒から挙手で発表させる。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 教師からの質問に対して自分の働きを振り返り、内容を仲間と共有する。(⑤) ・ T1 は、生徒が思っていることを的確に言えない場合に、望ましい言い方を示し、発言を促す。(配慮⑨)	
	・ 教師からの講評	・ T1、T2 の話を聞く。	・ T1、T2 は目標に対する結果に基づき、生徒の反省内容を踏まえて気付いた点を生徒に伝える。	
	・ 次時の予告	・ 次回の内容を知る。	・ 次回の内容を伝える。	
	・ 挨拶	・ 日直が号令を行う。		

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

「輪花皿 58 枚の釉がけと修正を協力して時間内に終わらせることができる。」という目標を設定した。これまでの授業の様子や、前提実習前ということも考慮し題材数を多めに設定し、個人の働きだけでは目標をクリアできない状況を設定した。また、この目標を達成するためには教師や仲間に対して報告・連絡・相談など必要なコミュニケーションをとることが必要となる。

② 対面的なやりとり

本時では実態の似ている生徒同士、または普段あまりコミュニケーションをとっていない生徒同士でグループを構成している。まず話し合いの際に人任せにしまいやすい生徒や、人の意見に流されやすい生徒同士でグループを構成することにより、自分の考えを伝えな

れば作業が進まない状況を設定した。また、自分の考えを強く主張しやすい生徒がいるグループは、相手の意見を聞き入れることや、相手の気持ちを考えて発言することが必要となる状況を設定した。いずれも教員が話し合いの様子を観察し、必要な助言を行う。

③ 個人としての責任

グループで話し合う時間を設け、自分の得意、不得意を含めチームとして効率よく作業するために軸がけ、修正どちらの役割を選ぶか自分たちで選択させる。また、教師は仕事内容や具体的な枚数を出し仕事量を明確に示すことで、個人の責任を明確にする。

④ 協同学習スキル

T1、T2 は仲間との情報共有の仕方に関して助言する。特に必要な情報は自分から聞きに行くことができるようになるというスキルに重点を置いて指導・助言を行う。例えば、普段から話し合いに積極的に加わらないことによって情報を聞き逃す生徒に対する指導や、一般就労を希望している生徒にはあえて曖昧な指示を出すことで、必要な相談ができるかなどを確認し指導・助言を行う。

⑤ チームの振り返り

まずは、チームとして目標を達成できたかどうか共通認識を持つための確認を行う時間を設定した。その後、「今日、意識したことは何か」、「その結果どうだったか」を個々に発問し、その内容に応じて「自分が与えられた役割をやりきることができたか」、「周りのためにしたことは何か」など質問内容を変更しながら生徒に発問し、最後に次回に向けた改善点を共有する。教師は目標に対する結果に基づき、生徒の反省内容を踏まえて気付いた点を講評する。

6 指導の効果

「輪花皿 5 8 枚の軸がけと修正を協力して時間内に終わらせることができる。」という目標の達成のためには互恵的な相互依存関係が発生することを、組織図を使って視覚的に説明したことにより仲間同士での報告・連絡・相談の必要性を理解させることができた。また、報告・連絡・相談に重点を置いて助言することで、結論から伝えるなど相手に言いたいことを伝える方法を細かな視点で対話（協同学習スキル）の指導を行うことができた。結果として、最後の振り返りの時間で生徒自身が今後の課題に気付き発言することができた。

7 今後の課題

実態差がある生徒同士をグループにした際に、T1 からの助言が少なく生徒に負担がかかってしまった部分があった。積極的な生徒、消極的な生徒どちらにとっても学びになるように、それぞれの生徒の個別の課題に対するアプローチを明確にして授業を作るようにする。また、仕事をすうえで必要なコミュニケーションの中心として報告・連絡・相談をすることを以前から継続して指導しているが、「何を」「誰に」「どのような言葉で」という状況に応じて必要なことを選択して言葉にすることが生徒にとって難しく、定着まで時間がかかるため継続して指導を行う。

※ 授業を振り返って

「協力して仕事をする」「報告・連絡・相談する」など、普段何気なく指導の際に使う言葉だが生徒にとってはそれがどういうことなのか、どうしたらできるのかというイメージを持つことが難しい。このため、組織図を使うことで具体的なイメージを持たせて実践に取り組む状況を設定したことが生徒の理解につながったと感じる。「協力して仕事をする」に関しては、普段は自分から責任のある役割を積極的に引き受けることのない生徒が作業の全体像を把握することで「自分以外にこの仕事をできる人はいないからやってみよう。」という自主的な態度が見られるようになった。また、反対に後先を考えずに役割を引き受けていた生徒は、その仕事は他の仕事とどう関係しているのかを理解することで、本当に自分にできるかどうかを考えるよう

になった。このように協同学習を通して、仲間と一緒に働くなかで必要となる協力することやコミュニケーションの学習を効率良く授業の中に組み込むことができた。

目標の設定に関しては、前提実習前ということもあり生徒が自分の課題を明確に感じられるよう意図的に達成困難な課題設定をした。しかし、授業の中で生徒を褒めるなどできることを評価する場面が少なかった。実際の授業ではできないことに対する指摘の数が多くなるが多いため、課題を実感させる場面だけではなく、自己有用感を感じられる場面を作ることを意識的に行っていく。

実践レポート

単元・題材名 (授業名)	学校祭製品の釉がけ・修正	生 徒	3 年産業科7名
		場 所	窯業室1
日 時	平成29年10月16日(月)5～6校時	指 導 者	T1:亀田 T2:穴田

① 互恵的な相互依存関係

時間内に釉がけから修正までを終えるという目標を設定した。T1 が担当する製品ごとのチームを決めた。目標は組織図を使って視覚的に提示し、全員が個人の役割を達成することで全体の目標を達成するという仕事の流れを理解させ、チームの仕事を把握することや、全体の仕事量を把握できるようにした。このことにより、自分の仕事が終わると他の仕事を積極的に手伝う生徒や、空き時間を有効に使って自分の仕事を早く終わらせようとする生徒がいた。このように、自分がすべき仕事はどれくらいあるのかということ把握していることで時間の使い方や働き方に良い変化が感じられるようになった。

② 対面的なやりとり

チームで話し合う時間を設け、チーム内での役割分担や効率の良い進め方を考えさせた。

また、異なるチームでも同じ釉薬を使うチーム、準備が重なるチーム、清掃に関しては全員で話し合うなど状況に応じて、必要な話し合いを関係するメンバーで行うなど状況に応じた話し合いを行う場面を設定した。他のメンバーが話し合いをしているときに加わらない生徒がいるが、必要な情報は誰かが教えてくれるのを待つのではなく、自分から聞きに行かなければいけないなどコミュニケーションの指導を行った。その結果、普段は他の仲間が話し合いをしても自分からその輪に入らなかった生徒が自分から周囲の様子を気にするようになってきた。

③ 個人としての責任

チーム内で釉がけをする生徒、修正をする生徒を決めて作業に取り組んだ。個人の仕事が完了することでチーム全体の仕事が達成されるという仕事の流れを説明することで、個人の責任を理解させることができた。「協力する」という言葉だけでは、自分の仕事を疎かにしてまで仲間の仕事を手伝おうとする生徒がいるため、まずは指示された仕事を終えることにより個人の仕事に責任を持つこと、その上で仲間適切な手助けをするという順序を間違えないように指導したことで、まずは自分のやるべきことがなにかを考えてから行動するようになってきた。

④ 協同学習スキル

グループ内で進捗状況を把握するための情報共有や、必要な情報を伝える、聞きに行くなどの報告・連絡・相談に重点をおいて指導を行った。間違ったときはその場ですぐにアドバイスし、上手に言えるまで試行錯誤しながら自分の考えをその場で言葉にしていくことを続けた。この結果、生徒自ら「今の言い方で大丈夫ですか」という質問をするようになるなど、自分が話す言葉に注意を払うようになった。

⑤ チームの振り返り

個人の反省で自分の働き方の振り返りを行い、その後全体でその意見を共有しチーム全体としての働き方について振り返りを行った。T1、T2 はうまくできたところや課題となる部分を生徒に伝え、課題や成果を明確にし、次回の学習に取り組めるようにした。

実践レポート

単元・題材名 (授業名)	タマネギのネット詰め	生徒	農業科1年生徒8名
		場所	農業科 ビニールハウス
日時	平成29年11月8日(水)5～7校時	指導者	T1:小原 T2:海田 T3:竹花

① 互恵的な相互依存関係

農業科1年生が生産したタマネギをネット詰めた。1袋5kgを、検品や計量、ネット詰めなど3つの工程にわかれて作業を行った。流れ作業で行い、8名の得意、不得意を理解し協調性を合い全員で1つの作業を成し遂げることができた。今金ファクトリーと言う会社の一員として協力・責任を意識して商品管理の一環でバーコードを使い、個数の管理を行った成果であると考え

② 対面的なやりとり

作業スピードを理解して、遅れている係の手伝いや確認をしてスムーズに作業を進めるように言葉掛けを行った。その結果、遅れている係が手伝いを求めたり、遅れている係に言葉掛けをしたりして状況を判断し、自ら手伝いを行うことができるようになってきた。

③ 個人としての責任

学校祭での1年農業科の販売物をタマネギとした。

袋詰めを行った際、検品・計量、ネット袋詰めなどの3つの作業を流れ作業で係分担して行わせた。担当した係の作業をしっかりこなすことはできたが、自分以外の作業は行わないで、作業を待っている生徒がいたので、待っている時間、ほかの係の手伝いをし、作業の流れを止めないように促したことで、全員で1つの作業を達成させる意識が身に付いてきた。そのために、効率よく流れを止めないように作業を行なえるように話し合いをして取り組ませた。

④ 協同学習スキル

作業中に困ったとき友達や教師に手助けを頼むことができる。ネット詰めを行う際、袋詰め係と計量係が検品係の進み具合が遅く待っている場面があった。

ネット詰めを行う時、検品作業が進まないと次の作業に取り掛かれないため手伝うように言葉掛けを行った。自分の係以外の作業にも気を配り、1つの目標を達成するために人手が足りていない所に積極的に言葉掛けをし、場合によっては手伝いに回るように取り組ませる。

⑤ チームの振り返り

検品、計量、袋詰めの順で作業を展開した。作業に時間を使いすぎ、振り返りの時間があまり取れず、教師からの講評しか伝えることができなかった。

今回は、反省の時間を取り、協力できた点足りなかった点などを考える時間を設定して終えるようにしたい。

1 学年 農業科 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	「タマネギのネット詰め」 お食事処「田なかさん」用タマネギ詰め	生 徒	農業科1年生徒8名
		場 所	農業科ビニールハウス
日 時	平成29年12月14日(木)5～6校時	指 導 者	T1:小原 T2:海田 T3:竹花

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・タマネギをネットに詰めることができる。
- ・販売物を大切に扱い、ミスがないように計り詰めることができる。
- ・バーコードを貼り、個数管理ができる。

(本時の目標)

- ・検品や計量を行いしネットに規定の重さ（5 kg）で、詰めることができる。
- ・タマネギを落としたり、雑な扱いをしたりしないなど、丁寧に取り扱うことができる。
- ・バーコードを貼り、個数の確認ができる。

2 生徒について

- ・積極的に授業に参加する生徒が多く、反応がよいクラスである。
- ・伝えることが得意な生徒と不得意な生徒がはっきり分かれているが、おおむね教師や友達に質問を聞くことができる。
- ・一度話し出すと歯止めがきかなくなるので、メリハリをつけるように指導している。

3 指導計画

- 第1回 10月26日(水) : 学校祭用タマネギネット詰め説明。実演し流れを学習する。
- 第2回 10月27日(金) : 学校祭用タマネギネット詰め学習。分担を決め取り組む。
- 第3回 11月 1日(水) : 学校祭用タマネギネット詰め学習。前回の続き。
- 第4回 11月 8日(水) : 学校祭用タマネギネット詰め学習。個数管理。
- 第5回 12月14日(木) : 「田なかさん」用タマネギネット詰め。(本時)

4 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 10分	・集合・挨拶 ・本時の内容・ねらいの説明	・日直が挨拶をする。 ・本時の作業内容について説明を聞く	・整列を促す。 ・前回のタマネギネット詰めに復習する。本日の授業の内容の確認をする。	
展開 80分	・タマネギのネット詰め役割を決める。	・タマネギのネット詰めを行なう際、検品係、計量係、ネット詰め係の3つがあり、人数の割り振りや係を決める相談をする。	・活動を見ながら助言をする。 ・相談に全員参加するように助言をする。	・はかり ・ネット ・バット ・ハサミ ・コンテナ ・メモ帳

	・タマネギのネット詰めを始める	・決まった際、使う道具を準備する。 ・各係に分かれて作業を開始する。	<協同学習の要素や配慮事項> ・ネット詰めの流れを共有し目標を理解して、協力してネット詰めを完成させる。(要素①) ・各担当の協力を促進するために、誰かが手助けが必要なのかを見て分かるようにする。(配慮⑥) ・再度確認事項を伝える。 ・作業を行ないながら効率よく出来るように随時アドバイスを行う。 ・販売物なので丁寧に扱うように指導する。 ・バーコードを付けネットの数を確認させ、入庫票に記入をさせる。 <協同学習の要素や配慮事項> ・役割を決め協力をしてネット詰めを行なうように指導する。(要素③) ・係内で話し合いをさせ、作業効率を高めさせる。(要素②) ・自分の係の作業に余裕のある場合は、他の係の作業を積極的に手伝うことができる。(要素②) ・作業中、困ったとき友達や教師に手助けを頼むことができるよう指導・助言をする。(要素④)	・バーコード ・セロハンテープ ・針金タグ ・タマネギのサイズ測り
整理 10分	・片付け ・反省	・使用した道具を片付け掃除を行う。 ・協力して作業目標を達成できたか話し合いをする。	・片付けの指示を出す。 ・本時の作業で良かった点悪かった点の例を出して、生徒に伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・各係内で協力して作業ができたかまた係同士で協力して作業を行なえたか話し合わせる。(要素⑤)	

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

今金町の飲食店にタマネギを販売する。農業科1年生が生産したタマネギをネットに詰める。1袋5kgのタマネギを、検品や計量、ネット詰めなどの3つの工程に分かれて作業を行う。流れ作業で行い、生徒8名の得意、不得意を理解して協力し合って全員で1つの作業を成し遂げる。今金ファクトリーと言う会社の一員として協力・責任を、入庫書やバーコードを使い意識付けを行う。

② 対面的なやりとり

作業スピードを理解して、遅れている係の手伝いや確認をしてスムーズに作業を進めるように言葉掛けを行う。遅れている係が手伝いを求めたり、遅れている係に言葉掛けをしたり、状況を判断しながら自ら手伝いを行うことができる。

③ 個人としての責任

担当した係の作業を正確に行い、作業の流れを止めないように促し、全員で1つの作業を達成させる意識をさせる。そのためには、周りの状況を見て流れを止めないように言葉掛けや話し合いをして取り組ませる。

④ 協同学習スキル

作業中、困ったとき友達や教師に手助けを頼むことができる。ネット詰めを行うとき、検品作業が進まないと次の作業に取り掛かれないため手伝うように言葉掛けを行う。自分の係以外の作業にも気を配り、1つの目標を達成するために人手が足りていない所に積極的に言葉掛けをし、場合によっては手伝いに回るように取り組ませる。

⑤ チームの振り返り

今回は、検品や計量、袋詰めなどの順で作業を展開した。作業に時間を使いすぎ、振り返りの時間があまり取れず、教師からの講評しか伝えることができなかった。今回は、反省の時間を設定し、協力できた点や足りなかった点など、考える時間を設定して終わるようにしたい。

6 指導の効果

作業を始める際の相談では活発な発言が見られた。係決めや道具の準備をスムーズに行うことができ、流れ作業や、各係の状況を意識しながら個人が役割を果たし、作業に取り組むことができた。

7 今後の課題

発言する際、自信を持って発言できるように教師が誘導や言葉掛けを行い、自信を付けさせて行く必要がある。中学時代に、特別支援学級で教師とマンツーマンで授業を受けていた生徒と通常学級で授業を受けていた生徒では、人前で話す経験やコミュニケーション力に差があるため、発表の場や相談の場を多く設ける指導が必要である。また、集中力が続かない生徒も多く、単調な作業を長時間続ける力をつけさせるための作業内容の工夫も必要である。

改善策については、発言の声が小さく周りの生徒に意見が伝わらないため共通理解が十分ではない場面があった。自分の意見をしっかり自信を持って伝えることができるように指導していく必要があった。

※ 授業を振り返って

展開での相談の場で活発に係決めや道具の準備をすることができ活動の見通しをもたせることができた。

検品の際、教師や仲間を確認する場面も見られ積極的に授業に参加できていた。1年を通して同じ作業をすることができない作業種が多いので毎時間の授業を工夫して行く必要があると感じた。5つの要素を授業に計画的に取り入れられるように日々の教材研究を考えて行わなければならない。

実践レポート

単元・題材名 (授業名)	温室掃除	生 徒	農業科1年生徒8名
		場 所	農業科 ビニールハウス
日 時	平成29年12月20日(水)5～7校時	指 導 者	T1:小原 T2:西脇 T3:関口

① 互恵的な相互依存関係

農業科1年生が温室掃除を行った。床を掃く係や雑草を抜く係、壁を拭く係などの3つの工程に分かれて作業を行った。生徒8名の得意、不得意を理解して協調性を図りながら全員で協力し、温室の掃除を成し遂げるように目標設定および提示を行った。

② 対面的なやりとり

スムーズに作業を進めるように生徒相互の言葉掛けを意識付けた。その結果、遅れている係の手伝いを行ったり、言葉掛けをしたりして状況を判断し、自ら手伝いを行うことができていた。

③ 個人としての責任

担当になった係を最後まで責任を持って行うよう指導した。

床を掃く係では、友達の掃き方を観察し、効率よく作業のやり方を相談しながら行うことができていた。また、雑草を抜く係では向い合い、手の届かない所などで合図を出し合い、協力して行う場面があった。壁を拭く係もコンテナを使い高い場所も拭くことができた。自分の掃除区域を終えた後で、終わっていない場所の掃除を手伝うこともできてきている。

④ 協同学習スキル

「自分の知りたいことを聞くことができる。」を重点に指導を行った。床を掃く係が最も時間がかかり他の係の生徒が手伝う場面が見られた。自分の作業以外にも、周りに気を配り言葉掛けを行うよう指導したことで、他の作業を手伝うことができていた。

⑤ チームの振り返り

作業時間に余裕があったため、良かった点や反省点をしっかり振り返ることができた。反省点では、もう少し周りの友達に気を配り作業を行えば良かったという発言や係の人数配置の見直しについての意見など、前向きな発言が多くあった。

実践レポート

単元・題材名 (授業名)	ドライフラワーでの花束作り (第6回)	生徒	農業科A組 2年生徒8名
		場所	作業室3
日時	平成29年11月14日(火) 3～4校時	指導者	T1:成田 T2:工藤

① 互恵的な相互依存関係

今回の授業では3月の販売会に向けた花束作りを行った。目標は、製品を楽しみにしているお客様のために、仲間と協力して丁寧に花束を作り上げることである。授業の始めに「3月の販売会に向けて全員が協力しながら、自分の役割を最後まで果たすことが必要である。」と説明したことで、目標を意識しながら確実に取り組めた生徒が多かった。反省会では、「誰か一人に頼りきりにならずに協力することができた。」といった意見が出て、協力することの良さや必要性に気付かせることができた。

② 対面的なやりとり

ペアやグループの中で、互いに伝えたり教えたりしながら1束の花束を作るよう指導した。作った後は、商品として販売できるものになっているのかを互いに確認するように伝えた。やりとりすることに困っている生徒には、「作り終わった後はどうしますか?」と言葉掛けしたことで確認し合うことができた。

③ 個人としての責任

ペアやグループの中では、配色を考えながら決められた数の花を選ぶ、花の並べ方を決める、ワイヤーで花を束ねる、花束をラッピングする、の4つの役割を設定した。生徒一人あたり1～2つの役割が当たるように、グループ内で話し合っ決めて決めることを促した。また、生徒一人一人が自分の役割を遂行することで、販売できる価値ある商品が完成することを伝え、個人の責任をもたせた。その結果、グループによって作業速度に少しの差は生じたが、各々が自分の役割を意識しながら丁寧に取り組むこともできた。

④ 協同学習スキル

前時のグループ活動では、仲間が困っているときや間違っ方法で取り組んでいるときに、スムーズに助言することが難しかった生徒がいた。本時では、そのようなことがないように勇気を出して助言してあげることで、仲間のためにもなり、良い商品を作ることもつながることを事前に説明した。少しずつではあるが、自主的に助言できるようになってきている。また、助言されるのを待つだけでなく、困ったときは自分から仲間に手助けを頼むことも必要であることも確認した。

⑤ チームの振り返り

グループでの協力の仕方について良かった点、良くなかった点を生徒に発表させ、仲間への適切な声の掛け方について確認することができた。また、仲間にとって任せたり、強い口調で指示を出したりせずに、仲間を尊重しながら協力することの大切さも伝えた。今回の授業で学習した仲間に対する助言の仕方や依頼の仕方は、作業学習だけではなく様々な学習場面や将来に生かしていけるように継続して指導していく。

2 学年 農業科 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	「ドライフラワーの花束作り」(第7回)	生 徒	農業科2年A組 生徒8名
		場 所	作業室 3
日 時	平成30年2月8日(木) 2～3校時	指 導 者	T1:成田 T2:森山

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・ 3月の販売会を意識しながら、丁寧に製品を作ることができる。
- ・ 仲間と協力しながら一つの製品を作り上げることができる。

(本時の目標)

- ・ 自分の役割を果たし、グループの仲間と話し合っ協力しながら取り組むことができる。
- ・ 販売する製品であることを意識しながら、ドライフラワーを丁寧に扱うことができる。

2 生徒について

- ・ 教師の説明を最後まで集中して聞くことができる。
- ・ 目標の達成を目指しながら、仲間と協力して取り組むことができる。
- ・ 分からないことをすぐに質問することが難しい生徒が数名いるため、「困ったらすぐに友達か先生に聞くこと。」と事前に言葉掛けが必要である。

3 指導計画

- 第1回 10月17日(火) : 生産品販売会用の花束作りの説明(作り方の実演含む)
- 第2回 10月23日(月) : 生産品販売会用の花束作り学習(役割分担をして取り組む)
- 第3回 10月26日(木) : 生産品販売会用の花束作り学習(前時の続き)
- 第4回 11月 2日(木) : 生産品販売会用の花束作り学習(前時の続き)
- 第5回 11月 9日(木) : 生産品販売会用の花束作り学習(在庫確認)
- 第6回 11月14日(火) : 3月販売会用の花束作り学習(役割分担をして取り組む)
- 第7回 2月 8日(木) : 3月販売会用の花束作り学習(本時)

4 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 10分	・ 集合、挨拶 ・ 本時の内容と目標の説明	・ 日直が挨拶をする。 ・ 本時の作業内容と目標についての説明を聞く。	・ グループごとに着席を促す。 ・ 前時の花束作りを想起させる。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 花束作りの工程と全員が課題を達成する必要があることを理解させ、目標を共有して一緒に取り組ませる。(①) ・ 本時の流れを黒板に示し、授業に対して見通しをもてるようにする。(配慮⑫)	・ 見本用花束

展開 70分	- グループごとに花束作りの役割を決める。 - グループごとに花束作りをする。	- 役割を決めるための話し合いをして、自分の役割をワークシートに書き込む。 (配色を考えて決められた数の花を選ぶ係、花の並べ方を決める係、ワイヤーで花を束ねる係、花束をラッピングする係) - 話し合って、協力しながら作業に取り組む。	- 積極的に話し合いをするように言葉掛けする。 <協同学習の要素や配慮事項> - グループ内の話し合いで、一人一つ以上の役割につくように助言する。(③) - 仲間に対する伝え方に困っていたり、仲間が間違った方法で取り組んでいたたりした場合は、望ましい伝え方の例を示し、その後自ら話すように促す。 (配慮⑨) - 巡回しながら適宜、助言をする。 - 販売する製品であるため、ドライフラワーは丁寧に扱うように指導する。 <協同学習の要素や配慮事項> - グループ内で教え合い、助け合わせることで、作業効率を高められるようにする。(②) - 困ったときに、仲間や教師に手助けを頼むことができるように伝え方を例示する。(④) - 努力によって成果を上げることができた生徒に対して、称賛する。(配慮⑩)	- ワークシート - 帝王貝細工 - 千日紅 - ラベンダー - ラグラス - ラッピング用ビニールシート - ワイヤー
整理 20分	- 片付け、清掃 - 反省 - 次時の予告 - 挨拶	- 使用した道具の片付けと清掃を行う。 - 本時の目標が達成されたかをグループで話し合う。 - 次時の内容を知る。 - 日直の号令	- 片付け、清掃を指示する。 - 本時の作業で良かった点と努力を必要とする点を講評する。 <協同学習の要素や配慮事項> - グループで話し合い、良かった点や反省点について振り返る。 (⑤)	清掃分担表

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

製品を楽しみにしているお客様のために、仲間と協力して丁寧に花束を作り上げることが目標である。授業の始めに「3月の販売会に向けて全員が協力しながら、自分の役割を最後まで果たすことが必要。」と説明し、目標を意識しながら確実に取り組ませたい。協力することの良さや必要性に気付かせることがねらいである。

② 対面的なやりとり

ペアやグループの中で、互いに伝えたり、教えたりしながら1束の花束を作るよう指導する。作った後は、商品として販売できるものになっているのかを互いに確認するように伝える。やりとりすることに困っている生徒には、「作り終わった後はどうしますか？」と言葉掛けをして確認し合うことを促す。

③ 個人としての責任

ペアやグループの中では、配色を考えながら決められた数の花を選ぶことや花の並べ方を決めること、ワイヤーで花を束ねることや花束をラッピングすることなどの4つの役割を設定する。生徒一人当たり1～2つの役割を担当できるように、グループ内で話し合っ決めてるように促す。また、生徒一人一人が自分の役割を遂行することで、販売できる価値ある商品が完成することを伝え、個人の責任をもたせることもねらいである。

④ 協同学習スキル

グループ活動で仲間が困っているときや間違った方法で取り組んでいるときに、勇気を出して助言してあげることで、仲間のためにもなり、良い商品を作ることにもつながることを事前に説明する。あわせて、生徒が助言しなかったり、伝え方が適切ではない場合には、伝え方を例示する。また、助言されるのを待つだけでなく、困ったときは自分から仲間に手助けを頼むことも必要であることを確認する。

⑤ チームの振り返り

グループでの協力の仕方について良かった点、良くなかった点を生徒に発表させ、仲間への適切な声の掛け方について確認する。また、仲間にすべて任せたり、強い口調で指示を出したりせずに、仲間を尊重しながら協力することの大切さも伝える。

6 指導の効果

本時の目標や流れ、花束作りの工程を明確に板書したことで、生徒に見通しをもたせて取り組ませることができた。また、販売会は地域の方々が毎年楽しみにしている行事であることを伝えたことで、心を込めて丁寧に制作することもできた。

役割を決めるための話し合いでは、一人一つ以上の役割につくように助言したことで、多くの生徒が積極的に話し合いに参加することができた。

花束作りでは、事前に仲間に対する望ましいアドバイスの仕方や望ましい依頼の仕方を例示したことで、言葉遣いを意識しながら丁寧に伝えることができるようになった。また、花束を丁寧に仕上げた生徒を称賛したことで、より色合いや花の位置のバランスを工夫することもできるようになった。

7 今後の課題

導入部分では、本時の目標だけではなく、生徒一人一人の目標も考えさせる機会を設け、より目的意識をもって取り組ませる必要があった。

役割分担をすることで、生徒一人一人に明確な役割を意識させることができたが、自分の役割が回ってくるまで仲間の作業を見てだけの時間が多くなってしまった。次に使う花を持ってくするように言葉掛けをしたり、役割の種類を多くしたりする工夫が必要であった。また、花を選ぶ

ときにかごなどを使用することで、より効率的にペアで協力して取り組むこともできると考える。

反省では、やや時間が足りなくなったため、グループで話し合い代表者に発表させたが、全員がしっかりと本時を振り返って発表できるように、時間配分の工夫が必要である。

※ 授業を振り返って

本時の目標や授業の流れ、作業工程を板書したことで、生徒はスムーズに作業に取り組むことができていた。また、工程表に自分の役割をチェックすることができるワークシートを準備したことで、グループでの話し合いを円滑に進めることもできた。導入において、互恵的な相互依存関係を形成させることが、協同学習を進める上で大切であると認識した。

生徒に役割を与えたことで、見通しをもって取り組むことができていたが、一人当たりの役割の数が少なかったため、待ち時間ができてしまった。もう少し役割の数を増やして設定する必要があった。反省では、展開の部分で時間を多く使ってしまった、生徒に十分な振り返りをさせることができなかったため、今後は授業全体の時間配分に留意していく。

本単元では、話し合いを基に仲間と協力して作業をする経験を重ねてきた。少しずつではあるが、自分の意見を発表したり、仲間の意見を聞いてまとめたりすることがスムーズにできるようになってきているため、継続して行っていくことで定着を図りたい。

実践レポート

単元・題材名 (授業名)	縫工 ステンシル布巾 (K Y T 安全な作業について第1回)	生 徒	家庭総合科1年 生徒8名
		場 所	縫工実習室
日 時	平成29年9月14日(木)6校時	指 導 者	T1:小林 T2:村瀬 T3:出村

① 互恵的な相互依存関係

ミシン針やアイロンでの軽微な事故が発生したため、作業学習中の安全意識を高めるために、ある作業場面の絵を見て、そのなかでどのような危険が潜んでいるかを考え、対策を立てるK Y T (危険予知訓練) 活動を取り入れた。本時はグループごとに安全目標を決定することをねらいとして行った。1回目であったため指導者の説明や助言を多用してしまったが、話し合いが進むにつれ、グループとしてのまとまりや主体的に学習しようとする姿勢が見られ、協力し合ってグループの結論を出し、一つの安全目標をそれぞれ決定することができた。

② 対面的なやりとり

初めての学習内容だったため、話し合いの際に自分の考えを発言しやすい状況を設定した。文章読解や要約についての理解の程度を基準として、平均的になるように4名1グループとしたことで、理解の比較的高い生徒がリーダー的な役割を担って発言し、その流れに乗るように理解の比較的低い生徒も発言できていた。仲間の意見に同調したり、その意見に関連した意見を述べたりする様子も見られた。

③ 個人としての責任

初めての学習のため、これまでの作業学習で経験しているブレインストーミングを取り入れ、各々が気になったことを何でも発言する形とした。また、発言を促すための材料として、具体的な例文を訓練シートに掲載し、一人1回以上発言することを目標に設定した。

話し合いでは、書記だけを設定するよう指示したが、リーダーや役割については指示しなかった。話し合いに苦手意識を持っている生徒もいるが、互いに声を掛け合い、自主的にリーダーやタイムキーパーを決めて話し合いを進め、全員が発表することができていた。次回は、本時の様子を踏まえて生徒の自主性を生かせる活動内容としていく。

④ 協同学習スキル

意見が対立したときに相手の気持ちをおもんばかる発言を苦手としている生徒が多いため、他の学習でも活用しているブレインストーミングを意識させて取り組ませた。しかし、まだ理解できていないと思われる場面が見られたため、笑顔で接すること、敬語で話すこと、意見が違っていても良いことを改めて指導した。今後も話し合い活動時における発言しやすい環境作りについて随時指導していく。

⑤ チームの振り返り

時間が不足したこともあり、各グループの意見やまとめを良い点と修正点とともに指導者から発表し、本学習の自己評価を生徒に述べさせた。初めての取り組みだったが、「安全への興味がわいた。」「みんなの意見が聞けて良かった。」などの意欲的な発言が多く挙がり、作業学習につなげられる安全面のポイントを共有することができた。今後は、時間設定を見直し、生徒自身によるグループの発表を行う時間を確保し、互いに評価できるようにする。

1 学年家庭総合科 作業学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	縫工 ステンシル布巾 (KYT 安全な作業について第2回)	生 徒	家庭総合科1年生 8名
		場 所	縫工実習室
日 時	平成 29 年 12 月 13 日(水)5～6校時	指 導 者	T1:小林、T2:出村

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・体験的な学習や生産学習を通して勤労の体験を豊かにし、その意義を理解させる。
- ・安全に留意しつつ、仲間と協力して作業することができる。

(本時の目標)

- ・仲間と意見を交わし、互いの意見を認め合うことができる。
- ・安全に対する意識を高め、安全行動目標を決定することができる。

2 生徒について

- ・話し合いの際に発言を得意とする生徒が5名、仲間からの誘導があると発言できる生徒が3名在籍している。
- ・他の学習でブレインストーミングを学習しているが、意見が対立したときに相手の気持ちをおもんばかる発言を苦手としている生徒が多い。
- ・発言を得意とする生徒が率先して発言し、その流れに乗るように周りの生徒が発言することが多い。

3 指導計画

第1回 9月14日 : KYT 安全な作業について①

第2回 12月13日 : KYT 安全な作業について② (本時)

第3回 1月18日 : KYT 安全な作業について③

4 本時の展開 13:50-15:30

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 5分	・始業挨拶 ・本時の説明 ・前時の復習	・日直に合わせ挨拶する。 ・本時の学習内容と流れについて理解する。 ・前時の活動の良かった点と課題点について確認し、本時の目標を知る。 ・商品企画会議と同様に話し合いの心得を確認する。	・日直に号令をかけさせる。 ・前時と活動の流れが同じであることを確認させる。 ・前時の話し合いの思い出させるためにKYTシートを見るよう促し、話し合い時のルールと本時の目標を確認させる。 ・話し合いの心得を掲示する。 KYT シートとは 職場や作業の状況を描いたイラストシート。 <協同学習の要素や配慮事項> ・前時を振り返り、前回同様に全員で本時の目標を達成できるように全員の協力を促す。(①)	・前時の KYT シート

展開 55分	・ K Y T 開始 (13:55) ・ 現状把握	・ K Y T シートを見る。 ・ 各自で画像の危険な所を見つけて記入する。	・ K Y T シートを配布する。 ・ 各自考えたあと、周囲の仲間と答えを確認させる。	・ K Y T シート ・ 個人シート
		・ グループの役割を決める。 ・ グループで話し合いをする。	<協同学習の要素や配慮事項> ・ 話し合い学習の前に自分の考えを明確にし、円滑に意見を交流できるようにする。(③) ・ 4人グループでの進め方やルールを確認をし、どのような役割が必要か問いかけ、役割を決めさせる。 ・ 各自の考えた危険なところを発表し、意見交換する。 ・ グループで5つ以上危険なところを挙げる。	・ グループシート
	・ 本質追求	・ 意見をまとめて一番危険な場所を決める。	・ グループで1番危険な場所を1つに決めるように促す。	
	・ 対策樹立	・ 各自で安全対策を考えて記入する。 ・ グループで話し合いをする。	・ 現状把握と同様に安全対策を各自で考える。 ・ 同様にグループで意見交換し、5つ以上対策を挙げる。	
	・ 目標設定 ・ 目標確認	・ 意見をまとめ、最適な安全対策を決める。 ・ 端的なフレーズにする ・ 全員で指差し呼称する	・ グループで最適な安全対策を1つに決めるように促す。 ・ 決定した対策を単語や短い文章に要約できるように状況に応じて助言をする。	

整理 10分	振り返り (14:50) ・まとめ	- 記入表へ自己評価を記入する。 - グループ内で意見交流する。 - グループ間交流をする。	- 自分の意見を言えたか、仲間の意見を認め合うことができたかななどを評価し、記入する。 - グループ活動の感想を発表させ、教師からの評価を伝える。 - 代表に安全目標と感想を発表させ、講評を伝え、互いにどのように感じたかを発問する。 <協同学習の要素や配慮事項> - 今回の状況を振り返らせ、話し合いが次回よりよい話し合いや発言ができるかを考えさせる。(⑤) - 良くできていた例を生徒へ伝える。(⑤)	・個人シート
清掃 10分	簡易清掃 (15:00)	・使用した場所のみ清掃する。	- 全員で話し合い、役割分担を決めさせる。 - 各自、担当箇所の清掃をする。	
反省 5分	- 次時予告 - 終業挨拶 (15:10)	- 次回の学習内容を知る。 - 日直に合わせ挨拶する。	- 別の話題で話し合いを行うことを伝える。 - 本時の学習プリントを全て回収する。 - 日直に号令をかけさせる。	
作業 日誌 15分	- 日誌を書く (15:15) - 更衣 (15:25)	- 教室へ移動する。 - 本時を振り返り作業日誌を書く。 - 日誌を提出する。 - 着替える。	- 教室へ移動させ、日誌を書かせる。 - 個別に提出させ、評価を口頭で伝える。 - 制服へ更衣を促す。	・作業日誌

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

話し合いのまとめをするのは司会や発表に限らないことを伝え、グループ全員で一つの結論を出そうという意識を持たせるようにする。

② 対面的なやりとり

生徒の読解力やコミュニケーション力には差があるが、一つの目標に向かって互いに協力できる関係づくりを目指し、半数の4名を1グループとして話し合いがスムーズに行われるようにグループを設定した。読解や発言が苦手な生徒には教師が言葉がけをしながら話し合いへの参加を促進する。

③ 個人としての責任

発言を促すための材料として、具体的な例文を訓練シートに掲載し、一人1回以上発言することを目標に設定した。また、全員が話し合いに参加するという意識や互いに話しやすい環境づくりを意識できるように前時にも経験しているブレインストーミングを引き続き取り入れ、各々が気になったことを発言する形とする。

④ 協同学習スキル

意見が対立したときに相手の気持ちをおもんばかる発言を苦手としている生徒が多いため、他の学習でも活用しているブレインストーミングを意識させて取り組ませた。しかし、まだ理解できていないと思われる場面も予想されるため、笑顔で接して敬語で話すこと、意見が違っていても良いことを改めて指導する。また、言い方が分からなかったり考えがまとまら

なかったりする生徒がいた場合は、個別に言葉がけをして自ら考えられるような働きかけをする。

⑤ チームの振り返り

授業の最後に話し合いを振り返らせ、自分の役割は果たせたか、適切な言い方で1回以上発言できたか、安全意識を高めることができたかなどを自己評価させる。また、グループ間での相互評価や教師からの講評を受けることによって、グループや自分の良さや課題に気付かせる。

6 指導の効果

話し合いでは、教師の予想通り発言を得意とする生徒の主導となったが、その流れに乗って発言を苦手とする生徒が自分の意見を言えることができており、活発な意見交流が見られた。先に個人シートへ書き、それからグループシートを書く流れも良く、話し合いで自分の意見を言うのが難しい生徒も個人シートを見ながら発言することができていた。グループでどのような役割が必要かを問いかけた場面では、両グループとも話し合いを進める人、グループシートに書く人が必要であると返答することができ、すぐに役割分担することができていた。また、商品企画会議で使用している話し合いの心得「笑顔と、敬語で、ブレインストーミング」を流用して注意点を再確認したが、用紙で確認する必要があるくらい生徒に浸透しており、活動の中でほとんどの生徒が意識しており実践できていた。

安全意識の向上も発言の中に表れていた。実際の作業の中でのKYTは次回以降の学習の予定だったが、両グループとも生徒自らが、縫工実習室の棚の設備や自分たちの作業学習で行うことがある高所からの荷物運びと結びつけて考えることができていた。

個人の振り返り用紙を見ると、8人中7人が、安全意識を高めることができ、8人全員が1つ以上自分の意見を言えたと、記入されており、目標をおおむね達成することができた。また、「時間を守れた。」「意見をたくさん言うことができた。」と感想を述べており、達成感を味わえる授業を展開できた。

7 今後の課題

KYTシートでのKYTを2回行い、絵を見て危険箇所や安全対策を考えることが上達したため、次回はシートではなく、実際に行う作業の一場面を行って見せて、より実践的な活動にしていく。その場合、記入用紙を使用せず、口頭のみで短時間で行えるように練習することで、比較的容易にKYTを行えるようになる。これが最終形であり、本学習の目指すところである。

自分の意見を言うことが難しい生徒がいるため、短時間で行う話し合いでは、個別に支援を行い、繰り返し練習をしていくことが必要になる。また、KYTの趣旨の理解が難しく、「宇宙人が来て、びっくりして椅子から落ちてしまう。」といった意見を述べる生徒もいたため、なぜこのような学習をしているのかをかみ砕いて説明するとともに、日頃の作業学習に結び付けて考えられるように個別にアドバイスをして、理解度を深めていく必要がある。

※ 授業を振り返って

「地震が起こるとキャビネットが落ちて怪我をするかもしれない。」「高所作業は、背が高く重たいものを持てる男子が行った方がよい。」など、KYTシートから読み取るのが難しいと思われることを自由な発想や多角的な視点で想像できていた。これは安全対策だけでなく、商品開発や様々な話し合いに生かせる能力である。協同学習を繰り返し行うことにより、コミュニケーション力の向上とともに、仲間の知識や考え方を全体で生かしたり、自分の新たな知識として獲得したりすることができるようになってきたと感じた。今後も生徒の能力向上に役立ち、協同学習を組み込むことのできる教材開発をしていきたいと考える。また、発言の内容やリーダーシップなど、生徒の成長が見られる場面が多くあり、称賛の言葉を多くかけることができた学習内容でもあった。

今回の研究授業を生かし、今後も授業づくりや指導方法の改善と充実を図りたい。

実践レポート

単元・題材名 (授業名)	縫工 ステンシル布巾 (K Y T 安全な作業について第3回)	生 徒	家庭総合科1年 生徒8名
		場 所	縫工実習室
日 時	平成29年12月20日(水)6校時	指 導 者	T1:小林 T2:出村

① 互恵的な相互依存関係

大掃除直前に実際に行う作業の一場面を行って見せて、より実践的なK Y Tを行い、全員で一つの安全行動目標を決めることができた。これまでの経験を生かし、自ら発言しようとする姿勢や、全員で協力しようとする姿勢が全員に見られた。話し合いの心得をあえて確認しなかったが、「笑顔と、敬語で、ブレインストーミング」を実践できており、協力して話し合いをしやすい雰囲気を作ることができていた。

② 対面的なやりとり

話し合いは発言を得意とする生徒が主導していたが、全員が協力して意見を出し合って一つにまとめることができた。発言が苦手な生徒にも話し合いに参加しやすいように教師が言葉掛けの配慮をしながら授業を進めたことと、ブレインストーミングを活用した話し合いを行ったことにより、発言が苦手な生徒も仲間の意見を参考にして意見を述べることができていた。

③ 個人としての責任

これまでと同様に一人1回以上発言する形で行い、全員が1回以上発言することができた。前回使用した個人シートやグループシートはあえて使用せず、口頭のみ活動としたが、それぞれが自分の意見を出すことができていた。

④ 協同学習スキル

ブレインストーミングを活用した話し合いにより、意見を否定しない発言しやすい環境を生徒自身で作りあげ、全員が自分の考えを相手に伝えることができていた。また、安全意識の向上も見られ、自分たちが実際に作業するときどのように行動すればよいかを考えて発言することができていた。

⑤ チームの振り返り

大掃除終了後に振り返りを全員で行い、話し合いと安全面のポイントを共有することができた。「自ら発言できた。」、「話し合いを短時間で進められた。」、「安全行動目標を実践できた。」などを挙げており、自分自身とグループの評価をすることができた。

また、「(今回のK Y Tで行った)窓拭き以外の掃除にもK Y Tを応用して安全に作業を進めることができた。」という感想が複数挙げられた。良い形で学習して教師の想定以上のことができるようになっていることを称賛し、話し合いの進め方とともに成長を認識させることができた。

実践レポート

単元・題材名 (授業名)	紙すき	生 徒	生活家庭科2年生徒8名
		場 所	作業室2
日 時	平成29年11月28日(火)3～4校時	指 導 者	T1:木田 T2:上村 T3:青山

① 互恵的な相互依存関係

製品の納品枚数と納品期日を伝え、その目標へ向けて、全員が協力して取り組むことができるようにした。作業を早く始めるために早めに準備に来る等目標に向けて努力していた。

② 対面的なやりとり

目標枚数を踏まえて、清掃と日誌記入に必要な時間を生徒達が話し合い、それぞれの開始時刻を決めるようにした。話し合い中は、その日の生徒の人数や教室の広さを考えながら話を進めていた。そして、作業開始以降は、時間に間に合わせるためにそれぞれ声を掛け合いながら作業を行っていた。

③ 個人としての責任

流れ作業であるため、自分の担当箇所が止まると、他の担当箇所も止まってしまい生産枚数が減る等全体に影響があることを伝えた。失敗しないように自分の担当の注意点を意識したり、手早さを意識したりしていた。しかし、別の日では達成できないことがあり、その日によって意識にむらがあることが課題である。

④ 協同学習スキル

流れ作業になるため、次の工程の担当の人や周りの人が作業をしやすくするためには、どのように声をかけたり、行動したりすると良いのかをその都度伝えた。そうすることで、少しずつ周りの仲間の作業のしやすさを考えながら発言することが多くなってきている。

⑤ チームの振り返り

目標を達成するための働き方と時間の使い方について反省の中でフィードバックした。その中で次回へ向けての対応策を考えることができた。

2 学年 生活家庭科 作業学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	紙すき	生 徒	生活家庭科2年生徒8名
		場 所	作業室2
日 時	平成29年12月18日(月)5～6校時	指 導 者	T1:木田 T2:山木 T3:青山

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・それぞれの担当の責任をもってライン作業を行うことができる。
- ・丁寧に手早く紙を作ることができる。

(本時の目標)

- ・生徒が立てた目標枚数を達成することができる。
- ・声を掛けながら作業をすることができる。

2 生徒について

- ・指示を聞いておおむね理解し行動できる生徒から、行動するまでに時間がかかる生徒まで幅広い実態の生徒が在籍している。
- ・言葉がけを行うことによって、丁寧さや素早さを意識することができるが、時間が経つと意識が薄れてしまう生徒が多い。
- ・他者との関わりについて、言葉が足りずに誤解が生じることや正しく伝わっていないことが多くある。
- ・多くの生徒が、作業に対して一生懸命行おうとする気持ちを持っており、目標を達成しようとする意欲は高い。

3 指導計画

4 月～ 5 月 紙すきに慣れる

6 月～ 1 1 月 学校祭の製品制作、受注製品の制作

1 2 月～ 販売会の製品制作、受注製品の制作

4 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 10 分	(・準備) ・挨拶	・始業のチャイムの前に できるだけ道具の準備 をしておく。 ・日直に合わせて挨拶す る。	・黒板の前に立つ。	・はかり ・パルプ ・ミキサー ・タイマー ・すき枠 ・台 ・アクリル板 ・ネル生地 ・不織布

	・ 本時の説明 ・ 本時の時間の計画と目標を立てる ・ 日誌記入	・ 本時の作業内容や受注している商品について確認する。 ・ 清掃開始、日誌記入、反省開始のそれぞれの時刻と、本時の目標枚数を話し合いで決める。 ・ 日誌に日時、体調、個人目標を記入する。 ・ 日誌の確認をT 1 に依頼し、本時の助言を聞く。	・ 本時の作業内容や受注している商品について確認する。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 納品枚数と期日を伝え、その目標へ向かって全員が協力して作業するよう意識付ける。(①) ・ 流れ作業の分担の1つでも止まってしまうと生産数が減ってしまうことを伝える。(③) ・ 周りの人が作業しやすいような行動や声がけについて具体的に確認する。(④) ・ 時間の使い方と目標枚数を話し合う時間を設ける。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 2時間授業であることを踏まえて、目標枚数と時間の使い方を話し合いで決められるようにする。(②) ・ 机間巡視を行う。 ・ 本時、担当する役割の注意点を助言する。	・ 作業日誌 ・ 筆記用具
展開 75分 程度 (生徒が時間を決める)	・ 準備 ・ 紙すき	・ 道具を準備する。 ・ それぞれ担当の作業を行い、担当の教師に確認を依頼する。 役割 ・ 計量、ミキサー ： A ・ すき枠： B ・ ローラー ： C, D ・ ラミネートはがし ： E, F ・ 牛乳パック切り ： G ・ はがし、裁断、アクリル板洗い、封筒制作のいずれか： H	・ 机間巡視を行う。 ・ 生徒が確認を依頼してきたときに確認を行う。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 周りの人が作業しやすいような行動や声がけができていないときには具体的な方法を助言する。(配慮⑧)	

	片付け・清掃	・計量、ミキサー担当は作業終了10分前に片付けを始める。 ・清掃の時間に合うようにそれぞれの担当で片付けを始める。 ・自分達で決めた清掃の時間になったら仲間に声をかけて清掃を始める。 ・プレス機と洗濯機をかけることを教師に依頼する。	・依頼を受けたらプレス機と洗濯機をかける。	・自在ぼうき ・ほうき ・ちりとり ・雑巾 ・バケツ
整理 15 分 程度 (生徒が 時間を決 める)	・日誌記入 ・ネル生地干し ・全体反省	・本日の反省を日誌に記入する。 ・記入後担当の教師に日誌を提出する。 ・本時の全体反省を行う。	・机間巡視 ・本時の作業中の様子について振り返りを行う。 ・目標枚数に対する反省、時間の使い方や作業に向かう姿勢について振り返りを行う。 <協同学習の要素や配慮事項> ・目標に対しての本時の取り組み方を全体で共有する。(⑤)	・筆記用具 ・日誌

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

製品の納品枚数と納品期日を伝え、目標へ向けて協力して取り組むことができるようにする。

② 対面的なやりとり

その日の授業時数や製品の納期を踏まえて、目標枚数と清掃、日誌記入の時間を生徒達が話し合い、助言し合ったりして決めるようにする。

③ 個人としての責任

流れ作業であるため、自分の担当箇所が止まったり遅れたりすることで他の担当箇所も止まってしまう等して生産枚数が減ってしまい、全体に影響が出たことを理解させ、それぞれが責任をもって丁寧さや手早さを意識しながら作業できるようにする。

④ 協同学習スキル

流れ作業が円滑に進むために、例えば、すき枠担当とローラー担当の間で作業が止まってしまうようなときには、「すき枠が溜まっているので、少し急いでもらっていいですか。」とお願いする等、担当同士や担当間でどのように声を掛けると良いのか、自分はどのように行動すべきなのかを具体的に確認し、作業中に実践できるようにする。

⑤ チームの振り返り

目標を達成するための働き方と時間の使い方について反省の中でフィードバックを行い、次の作業に生かせるようにする。

6 指導の効果

自分達で目標枚数を話し合い、決定することで、指導者が目標枚数を設定していたときよりも、目標枚数に対して責任を持って作業をすることが増えた。また、話し合いの中で目標枚数を少しずつ増やしていきたいという要望が生徒から出てきており、自分達で丁寧さや速さを意識して取り組んでいる様子が見られた。

仲間同士で声を掛け合うことについては、以前よりも行う生徒が増えてきた。

7 今後の課題

全員で話し合いをして目標枚数を決めているが、授業を参観した教師から本時の目標枚数を質問された生徒が、「目標枚数はありません。」と返答していた。話し合いの際に中心となる生徒が固定されていることが原因と考えられるため、全員が同じように責任や意識を持てるように話し合いの司会を輪番にする等の工夫が必要である。

また、チームでの振り返りを行うことによって、取り組み方について意識は強くなったように思うが、本時までの間で生徒に力を時間の使い方について身に付けさせることは難しかったため、今後も継続して振り返りを行っていく必要がある。

※ 授業を振り返って

本時の授業では目標枚数を達成させることができなかった。目標に対する意識は高まってきてはいるが、目標が達成できるときとできないときで波があるため、自分が担当する仕事に対して責任をより持たせる必要がある。そのためには個々の技術の向上も必要である考える。授業の中で全体の動きを見ることが多かったが、個々の働き方も同時に見ていく必要があると考える。

紙すきは流れ作業であるため普段から協同的な学習になるように意識しているが、5つの観点を意識して指導を工夫することの難しさを感じた。

実践レポート

単元・題材名 (授業名)	紙すき	生 徒	生活家庭科2年生徒8名
		場 所	作業室2
日 時	平成29年12月20日(水)2校時	指 導 者	T1:木田 T2:山木 T3:青山

① 互恵的な相互依存関係

製品の納品枚数と納品期日を伝え、その目標へ向けて、声を掛け合ったり、それぞれが手早さや丁寧さを意識するなどして協力して取り組むことができるようにした。作業を早く始めるために早めに準備に来る等目標に向けて努力していた。

② 対面的なやりとり

目標枚数を踏まえて、清掃と日誌記入に必要な時間を生徒達が話し合い、それぞれの開始時刻を決めるようにした。前回の作業で、目標枚数を達成できなかったことから、より、授業時数や、やらなければならないことを踏まえて話し合いをしようとする様子が見られた。

③ 個人としての責任

流れ作業であるため、自分の担当箇所が止まると、他の担当箇所も止まってしまい生産枚数が減るなど全体に影響があることを伝えたが、丁寧さを意識するが故に行動が遅くなってしまう生徒が多かった。生徒が個人の責任を意識するためには、個人の役割と紙を大量に生産することにつながりがあることを、より意識させる必要があり、そのためには、生徒個人の技術を向上させられるように指導していく必要がある。

④ 協同学習スキル

例えば、すき枠担当とローラー担当の間で作業が止まってしまいそうなどときには、「すき枠が溜まっているので、少し急いでもらっていいですか。」とお願いするなど、次の工程の担当の人や周りの人が作業をしやすくするためには、どのように声をかけたり、行動したりすると良いのかをその都度伝えた。声を掛け合っているときには称賛することで、少しずつ声が出るが増えたが、状況に合わせて発言するまでには至っていない。今後も称賛や改善点の助言を継続していく。

⑤ チームの振り返り

目標を達成するために、作業時間をできるだけ確保できるよう、時間の使い方についてフィードバックした。特に清掃の時間は全員で協力して行えるよう、すき枠やローラーなど、それぞれ別の担当をしているメンバーが同じ時間に清掃に入るための工夫について助言を行った。その中で次回へ向けて、清掃に入る前段階として担当ごとに事前に道具の片付けを開始する時間を決めることなど対応策を考えることができた。

まとめのレポート

教科・形態名	作業学習	部会メンバー	内田、小原、小林、成田、津村、木田、亀田
--------	------	--------	----------------------

（１）作業学習の指導内容や特性

作業学習の目標は、勤労の意義について理解するとともに、職業生活に必要な能力を高め、実践的な態度を育てることである。

働くことの意義を理解し、作業や実習に取り組み、働く喜びを味わい、道具や機械の操作に慣れるとともに、材料や製品の扱い方を身に付け、安全や衛生に気を付けながら作業や実習をする。また、コミュニケーション力として、自分の分担に責任をもちつつ、他の者と協力して作業や実習をすることも必要である。

さらに進路実現へ向けて、働くことの意義について理解を深め、積極的に作業や実習に取り組み、職場に必要な態度を身に付ける。また、道具や機械の仕組み、操作などを理解し、材料や製品の管理を適切に行い、安全や衛生に気を付けながら正確に効率よく作業や実習をすることも重要であり、個に応じた指導していく必要がある。その中でも、生徒の実態に即して、生活に結び付いた効果的な指導を行うとともに、生徒が見通しをもって、意欲的に学習活動に取り組むことができるよう配慮することも必要である。

（２）作業学習における協同学習の授業づくり

1 互恵的な相互依存関係

- ・組織図で仕事の流れを示すことにより、全員で協力して仕事をしなければ達成されない目標に取り組む。
- ・「釉がけから修正までを中学生に教える。」というような、周りの状況を見ながら協力して動かなければ達成されない目標に取り組む。
- ・製品の納品数と期日を伝え、その目標へ向けて、協力して取り組む。
- ・時間内に釉がけから修正までを終えるという目標を設定して、全員で協力して取り組む。
- ・危険予知訓練を行い、班ごとや全員で一つの安全目標を決定する。
- ・生産したタマネギを、各工程（検品、計量、ネット詰め）に分かれて流れ作業を行い、全員で販売製品を完成させる。
- ・温室掃除について、床を掃く係、除草係、壁を拭く係の3つの係に分かれて作業を行い、全員で掃除を終えさせる。
- ・班長の指示により全員で道具の準備に取り組む。

2 対面的なやりとり

- ・進捗状況を見て、遅れている係が自ら手伝いを求めたり、自ら遅れている係へ手伝いを行ったりする。
- ・係内で進捗状況の確認をさせ、作業効率を高めさせる。
- ・全員や班で話し合う時間を設け、役割分担や道具の配置、工程ごとの開始時刻など、効率の良い進め方を考えて決めさせる。
- ・理解の比較的高い生徒をリーダーとして率先して発言させ、その流れに乗るように理解の比較的低い生徒も発言できるようにする。
- ・目標時間を守るように互いに声を掛け合って作業を行わせる。
- ・ブレインストーミングを活用して、発言が苦手な生徒には、仲間の意見を参考にして自分の意見を述べさせる。

- ・各自の考えた意見を発表し、意見交換させる。
- ・班で話し合っ、班で良いと思った考えを5つ以上挙げさせる。
- ・積極的に発言をするのが難しい生徒同士や普段あまりコミュニケーションを取っていない生徒同士で班を構成し、意見交換させる。

3 個人としての責任

- ・流れ作業で、各工程を個人やグループに担当させる。自分の工程が止まると、他の工程も止まったり、全体の生産数が減少したりするなど全体に影響があることや個人の仕事が完了することでチーム全体の仕事が達成されるという仕事の流れを伝え、自己責任の理解を促して作業させる。
- ・担当になった係の仕事が完了するまで責任をもって行わせる。生徒の実態に合わせて意図的に仕事量を調整する。
- ・班として効率よく作業するために、個々の得手不得手を含めて自分たちで考えて役割を決めさせ、それぞれの役割に責任を持たせる。
- ・作業の終わりにまとめている個別の「到達レポート」で、現時点の習得状況を確認させ、各自に次の目標を考えさせる。
- ・自分の仕事が遅れているときには、空き時間や休憩時間にも仕事をさせる。
- ・一人1回以上発言する形を繰り返し行い、個々の責任を意識させる。
- ・個々の生徒が気になったことを何でも発言しても良い形を設定し、一人1回以上発言させる。
- ・発言をしやすくするための具体的な例文をワークシートに掲載し、全員の発言を促す。

4 協同学習スキル

- ・必要な情報を、仲間や指導者に自分から聞く。
- ・困ったときに自分から助けを求める。
- ・同じ班の仲間が状況に応じて助けるなど、他の人のためにできることは何かを考えて動く。
- ・仲間が作業をしやすくなるように、考えながら発言する。
- ・進捗状況を把握するための必要な情報を互いに伝え合う。
- ・自分の好み（視点）ではなくお客さんの立場に立った物づくりを意識して活動する。
- ・意見が対立したときに相手の気持ちをおもんばかる発言を苦手としている生徒のために、ブレインストーミングを活用して、他人の意見を否定しない話し合いを行う。
- ・話し合いでは、笑顔で接することや敬語で話すこと、意見が異なっても良いことを理解して、意見を出しやすい環境を作る。

5 チームの振り返り

- ・作業日誌やワークシートに記入し、個別に振り返りを行わせる。
- ・全体の場で、自己評価を生徒に述べさせる。
- ・各自で振り返りを行った後、全体でその意見を共有して全体として振り返りを行う。
- ・毎回、到達レポートを書き、課題や進捗状況を振り返り、確認させる。自分の課題を毎回確認させることで次の目標を明確にさせ、意欲を持たせる。
- ・良い部分や課題となる部分を教員から伝えて、次の課題を意識させる。
- ・目標を達成するための動きと時間の使い方を反省の中で伝える。
- ・今回の状況を解説し、次回はどのようにすればより良くできるかを考えさせる。
- ・良くできていた例を生徒へ伝える。

- ・報告・連絡・相談に重点を置いた細かな視点でフィードバックし、生徒自身に今後の課題を気付かせる。
- ・今回の目標を教員とともに確認し、自分自身と全体の評価をさせる。

(3) 作業学習で協同学習を取り入れるメリット

制作活動では

- ・自分が担当している仕事がどれくらいあるのかを把握していることで、時間の使い方や働き方に良い変化が感じられるようになる。
- ・遅れている係の手伝いを行ったり、言葉掛けをして状況を判断したりして自ら手伝いを行うことができる。
- ・仲間の仕事を観察し、効率が良い方法を相談しながら行うことができる。
- ・同じ仕事内容の仲間と合図を出し合い、協力して行うことができる。
- ・繰り返し制作することで、個別の仕事や仲間との協力など、経験を生かして活動することができる。
- ・今回行ったことを、異なる作業内容にも応用して作業を進めることができる。
- ・仲間と協力して仕事を時間内に終わらせることができる。
- ・制作活動に必要な報告・連絡・相談を行うことができる。
- ・自分の働きを振り返り、内容を仲間と共有できる。
- ・自分の考えを伝えなければ作業が進まない状況を設定することで、相手の意見を聞き入れることや相手の気持ちを考えて発言することが徐々にできる。
- ・学年が上がるにつれて、より具体的で細かな点を意識させる学習ができる。
- ・振り返ることで生徒自身が今後の課題に気づき、口頭や文章で表現することができる。
- ・係決めや道具の準備をスムーズに行うことができる。
- ・流れ作業では、各係の状況を意識しながら個人で役割を果たし、作業に取り組むことができる。
- ・全体や班で目標を共有できる。
- ・到達レポートを用いることで、前回と今回の出来高の違いや現在の到達度を自分で確認して、作業を進めることができる。

話し合い活動では

- ・生徒自ら「今の言い方で大丈夫ですか。」という質問をするようになるなど、自分が話す言葉に注意を払うことができる。
- ・自ら発言しようとする姿勢やみんなで協力しようとする姿勢が全員に見られる。
- ・仲間と意見を交わし、互いの意見を認め合うことができる。
- ・発言が得意な生徒と苦手な生徒を同じ班にすることで、助け合い、活発な意見交流が見られる。
- ・振り返りをする中で、「時間を守れた。」「意見をたくさん言うことができた。」と感想を述べる機会があり、達成感を全員で味わえる授業を展開できる。
- ・作業開始時の作業内容を仲間同士で相談する時間に、活発な発言が見られる。
- ・班長や指導者に対し報告、相談など必要なコミュニケーションを取ることができる。
- ・班長を中心として、生徒間で「質問する」、「伝える」ということが随所に見られる。

(4) 課題点

班の話し合いに加わるのが難しい生徒には、必要な情報は誰かが教えてくれるのを待つのではなく、自分から聞きに行くためのコミュニケーションの指導や支援が必要である。また、文章をまとめることに課題がある生徒には、ワークシートに反省を書くための支援や話し合いの

流れや結論を視覚化し共有できるような配慮、話す目的や場に応じた言い方で話すような促し、不適切な場合は教師が改善のポイントを示し言い直しを促すなどの支援も必要である。そして、自分の意見を言うことが難しい生徒には、言葉を言い換えるための補助などを行い、繰り返し練習をしていくことが必要になる。

「何を」、「誰に」、「どのような言葉で」という状況に応じて必要なことを選択し、言葉にすることが難しい生徒が多い場合は、説明の仕方についての指導や支援が必要となる。また、声が小さいことで周りの生徒に意見が伝わらずに共通理解が難しい場面がある場合は、協同学習以外にも、自信を持って自分の意見を伝えることができる指導も行う必要がある。さらに、人前で話す経験やコミュニケーション力に差がある場合は、発表の場や相談の場を多く設ける指導も必要である。

仲間との相談をしやすくするために、班編成をする際、能力的に同程度の生徒をまとめる必要がある。また、実態差がある生徒同士をチームにして、理解力の比較的高い生徒に負担がかかってしまった場面もあった。全ての生徒の学びになるように、それぞれの生徒の個別の課題に対するアプローチをより明確にしなければならない。また、班長を中心とする活動では、班長の実態に合わせた仕事量（技術面やコミュニケーション）の調整をする必要もある。

実践レポート

単元・題材名 (授業名)	心とからだの学習① (単元の内容や学習予定を知ろう)	生 徒	1年生徒23名(1名欠席)
		場 所	視聴覚室
日 時	平成29年6月8日(木)2～4校時	指 導 者	T1:住谷 T2:中市 T3:高山 T4:海田 T5:村瀬 T6:西脇

① 互恵的な相互依存関係

「性の学習」ということで女子6名×1と男子6名×3でグループイングし、同じ空間で全員が共通の課題に取り組んだ。テーマは、「異性に対しての長所と短所」を設定し、KJ法を用いて話し合った。ルールとして、発表時は、一人1回は話すこと、付箋に一人3枚以上は自分の意見を書くこと、まとめ方は自由であるが、協力し合ってまとめるという設定をした。

その結果、グループでは、様々な意見の交換が行われ、短い時間で中身の濃いグループ学習を行うことができた。また、まとめ方を自由に設定したことで、カテゴリー別に分けるグループと個人の意見で分けるグループなどがあった。

② 対面的なやりとり

パワーポイントで説明する際に、教師が話し続けるのではなく、教師と生徒の対面的なやりとりと生徒同士の対面的なやりとりを意図して行った。具体的には、クイズ形式の掲示と質問を多くした。はじめは、自分から挙手していた生徒を指名して、発表させ、意見を言いやすい環境を設定した。挙手する生徒が特定されてくるので、積極的に発表しない生徒を指名して、答えをすぐ言えない場合は、教えてくれる人をその場で募集し、生徒から生徒への対面的なやりとりの場を設定した。意見が出たり正解をしたりした場合はその都度、全員が拍手をして称賛した。

その結果、「性の学習」に関しての興味や関心を向上させることができたが、難しい内容の質問になったときに機能しなかったので、次の授業では、課題設定の水準に留意する。

③ 個人としての責任

グループの中で、個人としての役割は、マジックを取りに来る人と画用紙を取りに行く人を設定した。しかし、6人編成のグループだったため、6人全員に役割を設定することができなかった。次回、グループのメンバー一人一人に役割を設定し、個人の責任を果たすことができるように計画する。

④ 協同学習スキル

協同学習スキルとして意図した内容は、グループでまとめ方と発表の仕方を自由と設定し、6人で話し合うようにした。各グループに教師が1名つき、生徒の発言や表現に課題がある場合は、支援し必要に応じて指導した。

注意する指導ではなく、教師は、生徒の意見や行動、リーダーシップ、アイデアを称賛することで生徒の発表意欲が向上したと考える。

⑤ チームの振り返り

時間の関係上、この授業時間内でチームの振り返りを意図した指導を行うことができなかった。第2回の授業で自分のグループの発表と他グループの発表の振り返りを行う予定。

1 学年 生活単元学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	心とからだの学習① 性教育講話振り返り、単元のまとめ	生 徒	1年生徒24名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成29年6月27日(火)5～6校時	指 導 者	T1:住谷 T2:中市 T3:高山 T4:村瀬 T5:西脇 T6:海田

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・自分の心や体を大切にする気持ちを持つことができる。
- ・性に関する正しい知識を身に付けることができる。
- ・男女の考えや行動の違いを知り、高校生としてふさわしい行動をすることができる。

(本時の目標)

- ・性教育講話の振り返りを行うことができる。
- ・性に関する正しい知識を身に付けることができたか、確認することができる。

2 生徒について

- ・性に対する関心・興味が高い生徒が数名いる。
- ・挙手して積極的に意見を言う生徒が多く、質問すると概ね答えることができる。
- ・生活単元学習では、グループで話し合う時間を多く設定してきたため、話し合うことに少しずつ慣れてきた。

3 指導計画

第1回 6月 8日 : オリエンテーション、異性への興味・関心 (グループ学習)

第2回 6月13日 : 男女の考えや行動の違いについて

第3回 6月22日 : 二次性徴、プライベートゾーン、性感染症について

第4回 6月26日 : 外部講師による性教育講話

第5回 6月27日 : 性教育講話の振り返り、単元のまとめ (本時)

4 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 10分	・出席確認 ・挨拶 ・本時の学習について ・本時の目標について	・指定された場所に着席する。 ・家庭総合科の日直が号令をかける。 ・本時の学習内容を知る。 ・本時の目標を知る。	・全生徒が着席したかと体調を確認する。 ・家庭科の日直に号令を依頼する。 ・本時の学習内容について説明する。 ・本時の目標について説明する。 <協同学習の要素や配慮事項> ・本時の流れと目標をホワイトボードに掲示する。(配慮⑬)	・座席表 ・ホワイトボード ・ホワイトボード用マジック

展開 80分	- クイズ大会を行う。(2問) - 成績発表 - 今まで学習した単元内容の復習 - 単元テスト - テスト答え合わせ	- ルールの詳細を聞く。 - グループで協力してクイズに解答する。 - グループで正解数を発表する。 - 本単元で学習した内容を振り返る。 - 前を見て、質問された場合は自分の意見を発表する。 3人グループになり、テストに取り組む。 - 個人(5分) ⇒3人(10分) - 丸をつける人を決めて答え合わせをする。 (25問×4点=100点)	- クイズのルールや個人の役割を説明する。(1問の制限時間1分) ＜協同学習の要素や配慮事項＞ 6人グループを作り、目的達成のために一人一人に役割を当てる。(③) - 全員が同じ課題に協力して取り組む。(①) - 教師が順番にグループの正解数や良かったところを発表する。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ - メンバー全員が達成感を感じることができるよう言葉のかけ方を工夫する。(配慮④) - チームで正解数と話し合い時の長所と短所を振り返る。(⑤) - パワーポイントを活用して、これまで学習した内容を振り返る。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ - 黒板には、本時の流れを掲示したままパワーポイントを活用して単元内容を振り返る。(配慮⑮) 3人グループを発表する。 (同じ長机に座っている3人) - テストの実施方法を説明する。 - テストを配布する。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ - 自分の役割を明確にする。(③) - 同じ課題を協力して行う。(①) 3人で議論して解答を考える。(②) - 個人の意見をすぐに否定しないように教師は言葉がけなどの支援を行う。(④)	- ミニホワイトボード×24 - ホワイトボード用マジック×24 - パソコン - プロジェクター - パワーポイント - テスト用紙 - パワーポイント
整理 10分	- 本時の授業の振り返り - 次の単元の予告 - 挨拶	- 本時の授業について振り返る。 - 次の単元名を知る。 「交流を深めよう。」 - 家庭科の日直は号令をかける。	- 生徒の理解度を確認する。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ - 本時の学習をとおして生徒の良かったところを紹介し、次回の単元に生かすよう説明する。(⑤) - 家庭科の日直に号令を依頼する。	パワーポイント

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

授業の前半では、6人グループで、協力して課題に取り組む内容を設定した。一人だけの能力では課題解決できない内容を意図的に設定することで互恵的な相互依存関係になることをねらいとした。

後半にも、同じくグループで協力して行う課題を設定した。後半の課題では、グループの人数を3人として役割の認識、目的意識の向上、達成感の充実を図る。

② 対面的なやりとり

後半で取り組む課題で、3人の考えや意見をすり合わせる時間を設定した。生徒は、おそらく初めての経験なので、発言の内容や進め方にとまどうことが予想される。教師が、机間巡視して適切な言葉かけを行う。

3人で取り組む単元テストは、授業で繰り返し登場するキーワードが中心で課題設定の水準を意図的に生徒が教え合うことのできる内容に設定した。

③ 個人としての責任

グループで取り組む課題は、一人一人が活動する場面を設定した。1回目のグループ活動では、全員が1枚のホワイトボードに記入する活動を設定した。2回目のグループ活動では、全員がまとめテストに取り組んでからグループで協力するように設定した。

その他に、道具を取りに来る人や成績を発表する人を決めて個人の役割を明確にする。

④ 協同学習スキル

質の高い協力ができるように、話し合いの前に、人の意見をすぐに否定しないこと、言い方に気を付けること、グループのメンバーに思いやりをもつことの3つを注意するように必ず説明する。

また、グループで活動時は、教師が机間巡視する。生徒の発言内容や行動に注視し、必要であれば言葉をかけて支援する。

⑤ チームの振り返り

前半のグループ活動では、成績発表をきっかけに2問中何問正解したかをグループで確認する。また、グループの話し合いの進め方の良かったところを振り返る時間を設定する。

後半の3人グループで行う活動では、3人で協力して答え合わせをし、点数化することで間違った問題や書けなかった問題について原因を話し合うなどして振り返る。

6 指導の効果

本時では、前半と後半に協同学習の要素を取り入れた。前半の6人で協力して一つの答えを書く活動は、学習に対する意欲の向上と、主体的に行動し、成功体験をすることで達成感を感じさせることをねらいとした。生徒が教え合うことができる問題を設定することで、一人一人の活動を確保し、協力して解答することができた。正解するために、「互恵的な相互依存関係」、「対面的なやりとり」「個人としての責任」の要素が必須となった。指導の効果としては、楽しみながら生徒同士で協力し、結果として全員正解することができた。大きいタイマーを使用して話し合う時間を明確にしたことで、残り時間を見て、話し合いが活発になったり、教え合ったりすることができた。

後半のグループ活動は、3人で単元のまとめテストに取り組んだ。3人で話し合うときに一人は進行役、一人が記入する、一人が空欄部分を探すなどの役割に生徒の誰かが気付き分担して行うことを意図して説明をしなかった。結果、役割分担をスムーズにできるグループもあったが、半数以上は個人の活動になってしまったので、ヒントになる言葉かけを増やした。言葉かけ後は役割を分担する生徒が増え、効率よく主体的に解答することができた。

7 今後の課題

6人グループを編成したときに横1列に座っている生徒6人としたが、端から端までの距離が遠かったり、全員の顔が見えなかったりした。今後、同様の話し合いをするときは、向かい合うなどの指示をする。そして、生徒が同じグループを認識できるように確認し、チームとしての団結力を高める必要がある。

3人グループでの活動は、3人で1枚のテストに解答する目的や意図の説明が生徒に対して不十分だった。今後は、3人で1枚のテストに解答する目的を生徒に分かりやすく説明する。

※ 授業を振り返って

協同学習の要素を取り入れた授業や話し合いでは、生徒が主体的に活動し、意見やアイデアの交換が活発に行うことができると感じた。

本時の授業を振り返ると、導入時の本時の流れの説明で、話が長くなってしまい、下を向いていた生徒がいたので、改善する。

全般を通してよかったところは、グループでの活動を多く設定し、「個人としての責任」の要素を必ず取り入れることで、生徒全員が授業に関心、意欲をもち、主体的に活動できたことである。また、まとめだったので、復習する内容が多かったが、クイズ形式や教師からの発問を多くすることで最後まで集中して考えることができたことも成果である。

改善点として、グループで活動することの意味や教え合うことの大切さを生徒にどのように伝えていくか、グループの振り返りをどのような方法で行うべきかどのような方法が生徒に適しているか考えて授業に取り入れていく。

実践レポート

単元・題材名 (授業名)	生活する力を身に付けよう① (オリエンテーション)	生 徒	1学年生徒24名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成29年9月21日(木)2～4校時	指 導 者	T1:村瀬 T2:中市 T3:高山 T4:海田 T5:西脇 T6:住谷

① 互恵的な相互依存関係

今回の単元のオリエンテーションということで、生活する力とはどのような力かをグループごとに協力し合って、画用紙にまとめる活動を行った。授業の中では、グループで活動することを中心としたため、アイスブレイクの意味を含めた。グループごとに進め方に差が出たが、どのグループも時間内にまとめる活動を行うことができた。その中で出てきた意見を教師がまとめると、「衣・食・住」と分けることができ、生活する力とは「衣・食・住」に関する力であることを学年全体で共通理解することができた。

② 対面的なやりとり

グループ活動における道具の準備や片付け、話し合い、発表準備など相手と話す機会を多く設定した。また、一人一人が自分で動いて活動を進めていかなくてはならないようなグループ構成にし、生徒個人のグループへの貢献がしやすい環境を設定した。生活する力について、仲間の考えたものと自分の考えたものを分類分けする活動では、グループ内で多くのやりとりが行われた。仲間に対する言葉遣いや話し合いの進め方など課題はあるが、グループ内で一言も発言しないという生徒はいなかった。今回は、グループ構成も影響して良い結果となったため、今後もグループ構成の仕方の工夫に重点を置いていきたい。

③ 個人としての責任

「生活する力とは何か。」という問いに対して、自分の考えを一人3枚以上書くという設定をした。必ず自分の考えを相手に伝えることができたが、一人一人の意欲の違いで3枚で終わってしまう人と3枚以上書く人で差ができてしまった。個人としてグループに貢献するという意味では、もっと意欲的に活動できる題材設定が必要であった。

④ 協同学習スキル

「仲間に対する言葉遣いに気を付けること。」「相手の考えを否定しないこと。」を重点に置いて授業を行った。どのグループも相手の考えを否定することなく、活動している様子が見られた。しかし、言葉遣いに課題が残るグループが多く、どのような言葉遣いが望ましいか提示が必要であった。今後は、具体的な言葉遣いや話し合いの注意点についての提示を積極的に行っていきたい。

⑤ チームの振り返り

今回の授業の中で個人としてグループに貢献する動きができたかという評価とグループとして協力して活動することができたかという評価を100点満点で評価してもらった。個人で点数が低くても、グループとしては点数が高いという評価に違いは出たが、どのようにグループのために活動すればよいか考えるきっかけとなった。今回は、口頭での評価としてしまったため、次回はワークシートを用いて、具体的な振り返りができるような設定を行っていきたい。

1 学年 生活単元学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	生活する力を身に付けよう② (活動の振り返り)	生 徒	1 学年 生徒 24 名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成 29 年 12 月 19 日 (火) 5～6 校時	指 導 者	T1:村瀬 T2:高山 T3:中市 T4:海田 T5:西脇 T6:住谷

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・バランスの良い食事を考えることができる。
- ・簡単な調理をすることができる。
- ・仲間と協力して活動することができる。

(本時の目標)

- ・本単元を通しての学習の内容や自分の活動を振り返ることができる。
- ・仲間と協力して振り返り用紙を作成することができる。

2 生徒について

- ・役割を与えられると、集団の中で力を発揮して活動することができる生徒が多い。
- ・自分から役割を探して活動することが苦手である。
- ・自分の考えを文章に書き起こすことが苦手な生徒が多い。

3 指導計画

- 第 1 回 1 2 月 5 日 : オリエンテーション、栄養素についての学習
- 第 2 回 1 2 月 7 日 : 調理計画①
- 第 3 回 1 2 月 1 2 日 : 調理計画②、調理場所の使用方法的学習
- 第 4 回 1 2 月 1 4 日 : 調理実習
- 第 5 回 1 2 月 1 9 日 : 本単元の活動についての振り返りをまとめる学習 (本時)
- 第 6 回 1 2 月 2 1 日 : 振り返りの発表、単元のまとめ

4 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 10 分	・挨拶 ・前時の振り返り	・窯業科の日直が挨拶をする。 ・調理実習の振り返りを写真を見て行う。また、他のグループがどのようなものを作っていたか知る。 ・調理実習時の振り返りシートを返却する。	・姿勢を正しているか確認する。 ・他のグループの調理したものを批判しないように指導する。 ・栄養バランスが良いかという視点で見ることを伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・グループ内外の仲間関係に常に注意を払っておく。(配慮④)	・パワーポイント

展開 100 分	・単元の振り返り ・ 掲示物作成	・ 各グループで振り返りの掲示物を作成し、発表することを知らせる。 ・ 使用する道具を準備する。 ・ マトリクス法を用いて、調理反省、個人反省、グループ反省の 3 項目で振り返りを行う。 ①それぞれの項目で、 「良い点・分かった点」「悪い点・分かった点」を考え、1 人 2 枚以上付箋に書き、用紙に貼る。 ※付箋の色 青…「良い点・分かった点」	・ 掲示物作成から発表までの流れを確認する。 ・ 掲示物の例を提示する。 ・ 毎時間の振り返りシート（4 枚）があるか確認する。 ・ 話し合いのルールを確認し、言葉遣いに気をつけるように促す。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 毎時間の振り返りシートを基に、グループで協力して調理実習の準備・実践に関する振り返りの掲示物を作成する。(①) ・ 活動の全体像（流れ）を視覚的に示し、その授業で何をするのかの見通しを生徒が持てるようにする。(配慮⑫) ・ グループ内で動く人が偏らないように、取りに行く人と活動場所の準備をする人に役割を分けるように促す。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ グループで話し合い、役割を分担し、準備を進める。(③) ・ 付箋の色について、ホワイトボードに書き、赤と青の付箋の使い分けに注意するよう促す。 ・ 個人反省、グループ反省は、振り返りシートを参考に付箋に書くことを確認する。 ・ 調理反省は、栄養バランスが取れていたかに重点を置いて付箋に書き出すことを伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 振り返りは、必ず一人 2 枚以上書く。(③)	・ 掲示物作成例 ・ 模造紙 ・ マジックペン ・ 付箋（赤、青、黄） ・ 画用紙
---------------------	--------------------------------	---	---	--

		赤…「悪い点・分からなかった点」 ②それぞれの項目で「解決策」を考えて、1人2枚以上付箋に書き、用紙に貼る。 ※付箋の色 黄…「解決策」	・グループで出した付箋を見て、解決策を考えるように伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・付箋をよく見て、項目ごとに解決策を話し合っ、グループで考えた解決策を書き出す。(②) ・タイミングを見て、相手の気持ちを考えて、自分の考えや気持ちを伝えるよう指導する。(④)	
・ 中間の振り返り	・ 振り返りシートにこれまでの自分の動きとグループの動きに対して中間評価を行う。	③付箋の内容が似ているものを分けてまとめる。 ④画用紙にまとめたことを箇条書きで書き、付箋の上から貼る。	・ この活動を行ってみて、自分の動きとグループの動きの改善点がないか評価し、すぐ実行できる解決策を話し合うように伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 振り返りシートを用いて、この活動を行ってからの自分のグループでの働きについて自己評価とグループ評価を行う。(②、⑤) ・ 内容が似ているものを寄せて貼り付け、短い言葉で表現できるようなまとめ方をするように促す。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 付箋をよく見て、内容が似ているものを話し合っ、まとめる。(②) ・ 一人の意見に流されないように注意を払う。(配慮⑤) ・ 相手が見て、伝わりやすい表現で書くように伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ みんなに伝えるために、文章や資料を分かりやすい形にすることができるよう指導する。(④)	・ 振り返りシート

		・片付けを行う。	・掲示物は、グループの代表が保管し、使用した道具は各学級や教員に返却することを伝える。	
整理 10分	・本時の振り返り ・次時の授業内容について ・挨拶	・振り返りシートに本時の活動の様子を振り返って記入する。 ・それぞれのグループでの活動について講評を聞く。 ・今回作成した振り返りの掲示物をグループごとに発表することを知る。 ・窯業科の日直が挨拶をする。	・振り返りシートを配布し、今回の自分の学習や中間評価から改善した行動を振り返る。 <協同学習の要素や配慮事項> ・振り返りシートを用いて、自分の学習の理解度やグループでの働きについて自己評価とグループ評価を行う。(②、⑤) ・グループ活動として良くできた点と改善点を伝え、次回に生かすように促す。 ・次回、掲示物を忘れずに持参することを伝える。 ・姿勢を正しているか確認する。	・振り返りシート

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

本単元を通しての学習の理解度や個人・グループの動き方の評価をグループで行い、グループとしての解決策を協力し合って1枚の模造紙にまとめるという学習を行う。

② 対面的なやりとり

話し合いのルールを取り入れ、どの場面でもグループの仲間のことを考えて話し合いを行う。また、グループとしての意見を全員で話し合い、一つにまとめる活動を繰り返し取り入れる。

③ 個人としての責任

付箋は必ず一人2枚以上書くようにする。各個人で毎時間行った振り返りを参考にすることを促し、一つでも多くの意見が出せるように言葉がけを行う。

④ 協同学習スキル

話し合いのルールを設定し、相手の気持ちを考えた言葉の選び方や意見の提案方法などを考えながら実践できるようにする。また、掲示物の作成においても、グループ以外の人分かりやすい言葉を想像し、表現することを学習活動として取り入れ、周囲のことを考えた行動や表現を考え、実践する機会にする。

⑤ チームの振り返り

掲示物を作成する活動に対しての個人・グループの評価を授業の中間と活動終了後に取り入れ、授業の途中で振り返ったことを、その後の行動の改善につなげる。また、中間の評価をした後に、改善している様子が見られたときには、称賛する。

6 指導の効果

模造紙1枚をグループで作成するために、一人2枚以上付箋に考えを書くことを設定として取り入れたことで、必ず活動に参加する環境を作ることができた。付箋を書く作業に時間がかかる生徒がいるグループは、仲間が声をかけて全員が2枚書けるように支援する状況ができ、対面的なやり取りが効果的に行われた。グループ内でのやり取りでは、話し合いのルールを意識し、相手のことを考えた発言をしている生徒が多く見られた。相手のことを考えた発言になるように、生徒同士で指摘し合うグループもあり、周囲を意識した発言ができるようになってきたと考えられる。中間評価に関しては、時間設定が短かったことと評価を行うタイミングが早いことから、評価を次の活動に生かすことができなかったグループが多かった。

今回の学習活動では、協同学習を取り入れたことで話し合いや活動を活発に行ったり、生徒同士でやり取りを行ったり、生徒が主体的に動く設定ができた。しかし、振り返りの時間が十分に確保できなかったため、効果的に取り入れられず、振り返ったことを活動に生かすことができなかった。

7 今後の課題

振り返りを効果的に取り入れるために、中間評価を行う時間を十分に取り、グループ内で次の活動の目標を全員が理解してから、後半の活動へ移るように設定する必要があると感じた。また、振り返りが苦手な生徒が多いため、様々な学習の中で振り返りを行って改善するという授業設定を様々な教科で行っていく。繰り返し振り返りを行うことで、日常生活でも自分自身を振り返り、課題を解決していく力が身に付くのではないかと考える。

※ 授業を振り返って

全体的に活動内容が多く、一つの活動時間を十分に確保できなかった。その中でも、時間内に活動を終わらせるという意識で生徒が活動したため、授業時間内に模造紙を完成させることができた。また、マトリクス法を用いた模造紙作成は、本単元の学習内容を分かりやすく振り返ることができたが、項目の説明が不十分で生徒を混乱させてしまうことがあった。授業の内容の精査と活動に対する丁寧な説明が課題である。

本単元では、毎時間活動の振り返りを行っていたため、自分がグループの中でどのような働きをするとよいかを考えるきっかけとなったと思う。グループの中での活動の仕方は、今後の学習や日常生活で生かしていけるように、積極的に生かせる場面を作っていきたい。

実践レポート

単元・題材名 (授業名)	生活する力を身に付けよう② (調理実習振り返り作成)	生 徒	1学年生徒24名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成29年12月21日(木)2校時	指 導 者	T1:村瀬 T2:中市 T3:高山 T4:海田 T5:西脇 T6:住谷

① 互恵的な相互依存関係

前回の授業で作成した模造紙を全員で発表する活動を行った。グループの全員がまとめた内容を理解していることが前提となるため、調理、個人、グループの良い点、悪い点、改善点を共通理解して発表を行うことができた。

② 対面的なやりとり

発表練習のときに、相手に分かりやすく発表するためにはどのような順番で伝えるかという話し合いを行った。また、発表練習をしているときには、仲間が読んでいるときに、読むところを指で指したり、相手に伝わりやすい読み方を提案したり、仲間同士でより良い発表にしようという動きが見られた。

③ 個人としての責任

発表するときには、必ず一人一回模造紙の文章を読むことを条件とした。発表する際には、体の向きや声の大きさなどの指導を行った。発表の際の声の大きさや体の向きにはばらつきがあるため、正しい発表の仕方を提示し、一人一人が適切な態度で発表できるように指導していきたい。

④ 協同学習スキル

「相手の考えを否定しないこと。」「どっちでもいいを言わない。」を重点に置いて授業を行った。その中で、以前より仲間のことを考える発言が増えたり、言葉遣いに気をつけたりする生徒が増え、より良い雰囲気の中で協議を進めることができた。話し合いを繰り返しながら、話し合いのルールを設定を少しずつ増やし、円滑に相手と会話をするためのスキルを身に付けさせたい。

⑤ チームの振り返り

授業の最後に振り返りシートを記入させた。今回は、学習内容と個人の動き、グループでの動きを自己評価させた。集団の中でどのように動いたらよいかということを考えるきっかけになったため、どのような授業でも生かせる目標を個人で立てることができた。しかし、中間評価を取り入れることができなかったため、1時間という短い授業時間でも、中間評価を取り入れられるような授業展開を考えていきたい。

実践レポート

単元・題材名 (授業名)	生活する力を身につけよう⑤ (一人暮らしの生活費を考えよう)	生 徒	2年生徒11名
		場 所	柔剣道場
日 時	平成30年2月9日(金)4校時	指 導 者	T1:高田 T2:工藤

① 互恵的な相互依存関係

授業の始めに、家計簿や給料について簡単に説明し、本時は一人暮らしの際にかかる費用について予想し、実際の額を知る学習であることを伝えた。お金に関する内容のため、興味はあるものの実際の額についてはまだよく分かっていない生徒が多かったが、将来の自分の生活を想像したり、自宅の出費について部分的に振り返ったりしながら、グループで協力して意見を一つにまとめて発表するという相互的な意識を高めさせることができた。

② 対面的なやりとり

生活経験が乏しく、給料がどのくらいなのか、生活に必要な物の値段はどのくらいなのか、などの金銭感覚に自信のない生徒が多かったため、少しでも経験値の高い生徒の意見が出ると、他の生徒がその発言に対して興味深く聞く場面が見られた。また、具体的な想像がつかない「娯楽費」などの費用については、逆に夢が膨らむようなとっぴな意見が出ることもあり、大いに交流することもできた。

③ 個人としての責任

3人程度の小グループで「一人暮らしをする際の1ヶ月の生活にかかるお金」(家計)について、光熱費や食費、交際費など、どの程度あれば良いのか、平均的な金額はいくらかを考え、グループとしての考えをまとめて発言するよう働きかけた。3人がそれぞれ司会、記録、発表者という3つの役割に分かれ、一人ずつ責任を持って役割を担うことができた。

④ 協同学習スキル

話し合いをする際、相手を否定しない言葉掛けや敬語を意識できるよう、ルールの一つとして提示した。以前から同じようなルールでの取り組みをしていたため、生徒も比較的順応し、仲間の発言を注意深く聞くことができた。グループで話をする際、自分の考えを一方的な言葉で伝えるなど、マナー面での定着には課題が残るが、指導者が丁寧な言葉で返すことによって少しずつ意識できるようになった。

⑤ チームの振り返り

グループとしての考えを全体に発表した際、同じ程度の金額で見積もった費用、大幅に差の開きがあった費用など、それぞれのグループで考えていることが多岐にわたっていることが明らかになった。また、実際の平均的な出費額を提示することによって、驚きや納得という形で振り返ることもできた。

2 学年 生活単元学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	進級に向けて（送る会の準備）	生徒	産業科 2年生徒8名 農業科A 2年生徒8名 農業科B 2年生徒8名 生活家庭科 2年生徒8名
		場所	視聴覚室
日時	平成30年2月16日（金）3～4校時	指導者	T1:高田 T2:石田 T3:矢倉 T4:森山 T5:上村 T6:山木 T7:工藤

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・先輩の姿を振り返り、理想の先輩像に向けて自分に足りない力を考えることができる。
- ・進級や就労に向けて、自分自身の課題を理解し、自分に必要な力を考えることができる。
- ・相手が喜んでもらえるように自分達ができることを精一杯行うことができる。

(本時の目標)

- ・卒業生を送る会に向けて、メッセージを完成させることができる。
- ・自分の考えを必ず発言し、責任をもってメッセージ書きに参加することができる。

2 生徒について

- ・本学年の生徒はコミュニケーションに課題のある生徒が多く、教師の支援を受けることによって発言したり、考えをまとめたりすることができる生徒が多く見られる。
- ・これまでに、生活単元学習の中でグループディスカッションやグループ学習に取り組んできたが、意見を積極的に発言できる生徒と発言の難しい生徒に二極化している。
- ・本時は3年生20名に対して、2年生32名でメッセージ作成に取り組むため、ペアとなって作成する生徒と単独で作成を行う生徒がいる。なお、単独でメッセージを作成する生徒についてもペアになって、お互いに相談したり、メッセージを読み合ったりなどのペア交流を行う。

3 指導計画

第1回 2月16日：単元説明と送る会に向けてメッセージ作成（本時）

第2回 2月21日：送る会に向けて合唱練習

第3回 2月22日：送る会に向けて発表の通し練習

4 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 10分	・始業挨拶 ・単元の説明 ・本時の説明	・農業科A組の日直が挨拶をする。 ・単元計画を見ながら学習内容について把握する。 ・本時の学習内容を理解する。	・授業開始の合図をする。 ・単元計画のプリントに沿って、学習内容の説明をする。 ・送る会に向けてメッセージを作成することを知らせる。	・ホワイトボード ・プリント

			<協同学習の要素や配慮事項> ・目標を共有できるよう丁寧に本時の目的や目標を説明し、全員の協力が必要であることを確認する。(①)	
展開 80分	・メッセージ作成	・自分のペアを知って座席を移動する。 ・授業中のルールを知る。 ・手順に沿って行動を開始する。 ・ワークシートを見ながらペアでメッセージの下書きを完成させる。	・ペアの座席を提示して、生徒を移動させる。 ・授業中のルールを確認する。 ①友達の発表したことや書いたことに対して、アドバイスをすることができる。 ②自分の意見を必ず1つは考えて相手に伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・コミュニケーションスキルをペア学習のルールとして授業に取り入れることで、意識的に会話することを意識して学習に取り組むことができるようにする。(④) ※上の二つのルールを伝えると同時に、仲間の意見に対してきちんと応答することも伝える。 ・ワークシートを配布して、教師の説明に従ってワークシートに取り組ませる。まず、個人で記入する時間を数分確保した後、ペアで意見交換して結果をワークシートに記入する。 ※T1～T7は巡回して、ルールを伝えたり、書き方について助言したりする。 <協同学習の要素や配慮事項> ・個人で記入する時間を確保することによって、必ず自分の意見を考えて記入することができるようにする。(③) <協同学習の要素や配慮事項> ・言語活動が充実するように、教師の言葉掛けは可能な限り減らし、ペアの交流の様子を見ながら必要に応じて生徒に声を掛けて支援する。(②) ・下書き用の紙を配布し、下書きを完成させる。下書きを書く際には、送る会にふさわしい内容であることや、誤字脱字がないかペアで確認をしながらメッセージを書くように伝える。	・座席表 ・ワークシート ・下書きプリント

			※T1～T7は巡回して、ルールを伝えたり、書き方について助言したりする。 <協同学習の要素や配慮事項> ・メッセージをペアで読み直したり、誤字脱字を確認したりすることで、ペアで作成したメッセージに対して振り返りを行う。(⑤)	
		・下書きを教師に確認してもらい、メッセージの清書を完成させる。	・教員が下書きを確認したら、清書用の紙を渡し、取り組むように伝える。清書書きは鉛筆で行う。	・メッセージカード
整理 10分	・まとめ ・挨拶	・教師に指名されたペアは、メッセージを読む。 ・挨拶する。	・メッセージが完成したペアの中から良く書けていたものを選び、発表する。 ・次回は歌の練習をすることを伝えて、農業科A組の生徒に挨拶をお願いする。	・メッセージカード

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

授業の初めに、仲間同士で協力し合って3年生のためにメッセージを作成することを目的としていること、必ず自分の意見を述べて、自分の役割に責任をもって取り組むことを本授業のねらいとしていることを生徒に明確に伝えることで、送る会を成功させるという同じ目標をもって達成に向けて協力して取り組むことができるように指導していく。

② 対面的なやりとり

ペア編成を言語活動が得意な生徒と苦手な生徒同士でペアを組んで活動を行うことで、助け合ったり、話し合ったり、励まし合ったりする活動が活発に行われやすいペア編成とした。言語活動が得意な生徒が積極的に話しかけることにより、言語活動が苦手な生徒との対面的なやりとりが充実することをねらいとして、ペアを構成した。また、単独でメッセージを書く生徒についても、チームとして振り返りを行うことができるように、ペア交流が行えるようにした。

③ 個人としての責任

ワークシートを用いて、自分の意見や考えをまとめた後にペアで交流することによって、責任をもって自分の意見を発表し、メッセージ書きに参加できるように教材を決定した。

④ 協同学習スキル

本時に指導のねらいとしている協同学習スキルは、コミュニケーションスキルの中から、友達の発表したことや書いたことに対して、アドバイスをすることができること、自分の意見を主張することができることの2つである。この2つを予め本時の授業のルールとして生徒に提示することで意識的に取り組めるようにした。また、相手の意見を受け入れ、正しく受け答えをしてワークシートにまとめることができるようにするために、教師が巡回して的確に助言を促せるよう事前に打ち合わせを行っている。

⑤ チームの振り返り

メッセージを作成する際には、文字の間違いがないかを何度も見直したり、文脈で話題がまとまっているかを読み返したりすることが想定できる。この学習をペアで行うことによって、さらに相手に気持ちを伝えるために工夫をしたり、ていねいな文章を考えたりと、自然と振り返りを行うことができるように本題材を設定している。また、漢字の間違いやメッセージの書き方、送る会にふさわしい言葉の選択を指導者が的確に助言することで、チームの振り返りを促せるよう事前に打ち合わせを行っている。

6 指導の効果

卒業生を送る会に向け、少ない時数の中で2学年発表を形作るために、音楽で学習していた「手紙～拝啓 十五の君へ～」という楽曲から、「先輩たちの将来を想像して手紙を書く」という視点で学年発表に取り組むこととした。先輩20人の手紙を2年生32名で分担して取り組むが、最終的には学年の発表としてまとめる必要があった。そのため、「互恵的な相互依存関係」「対面的なやりとり」や「個人としての責任」の要素に特に力を入れて生徒に取り組ませることができた。

ペアワークとする際に、ワークシートや拡大プリントによる説明を先に行うことで、どんな文章を書けば良いのかを明確にしてペア同士が自主的に取り組めたため、特に「個人としての責任」の要素を満たすことができた。

「協同学習スキル」については、本時以前にもいろいろな学習場面で経験を積んでいたため、戸惑うことなく自主的に取り組むことができた。

7 今後の課題

生徒によっては、「自分の希望した先輩ではない」という気持ちからか、なかなか課題に取り組めないことがあった。その際、周囲の仲間が助け船となり、文章のアイデアをいろいろと出すことがあったので、そこを生かすために2人一組のペア学習という枠を結果的に外す場面が生じた。複数のアイデアにより手紙の文章にもっと広がりが出ることを考えると、3人以上のグループ学習もあらかじめ想定しておく必要があった。

また、もう少し学習の時数が確保できたならば、手紙文発表による全体共有などができ、「チームの振り返り」という要素がより充実したと考える。

※ 授業を振り返って

卒業生を送る会の発表を短時間で取り組ませなければならなかったため、この時期インフルエンザや個別実習等で欠席せざるを得なかった生徒たちは、活動には十分に参加することができなかった。しかしながら、短時間で最大限できる限りのことをして3年生に感謝のメッセージを伝えることができたという経験は、取り組んだ生徒たちにとっては大きな力となったと考える。また、協同学習の要素を取り入れた授業や交流の中で、生徒が主体的に活動することができた。これは、今回の指導だけではなく、生徒が1学期から少しずつ協同学習に取り組んできた多くの学習による成果であり、いろいろな指導者の指導のおかげであると言える。

改善点として、先輩に手紙を書くことの効果をもっと模索して生徒に伝えることや、ペアワークから発展することももう少し事前に準備していく必要があったと反省する。次回からの学習にできるだけ取り入れていきたい。

実践レポート

単元・題材名 (授業名)	社会人としてのくらし方① (ビジネスマナーについて考える)	生 徒	3年生徒15名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成29年7月10日(月)3～4校時	指 導 者	T1:石川 T2:鐘ヶ江 T3:田中

① 互恵的な相互依存関係

学年の生徒全員を習熟度別のグループにして、ビジネスマナーに関する問題を2問ずつの計8問を出題し、問題の解答とその理由をグループで協力し合って話し合った。その後、各グループの生徒が一人ずつ入るようにグループを変更し、このグループでの全問正解を目指した。変更前のグループでの話し合いの時間が足りずに解答が出せないグループがあった。今後は、話し合う内容をもっと精選して、ゆとりを持った活動ができるようにしたい。

② 対面的なやりとり

最初に個人での解答を考える時間を十分に設けたことで、自分の考えをまとめることができ、それを基にグループでの話し合いで対面的なやりとりがスムーズにできた。また、答えを一つに絞るように促したことによって、変更後のグループに分かりやすく伝えることができた。しかし、その答えを一つに絞り切れずに、伝えられなかった生徒が数名いたので、今後は、発表原稿をつくること、どうしても一つに絞り切れなかった場合はその理由を伝えることを促して、全員が対面的なやりとりができるようにしたい。

③ 個人としての責任

変更前のグループの一人一人がバラバラになり、変更後のグループに対して変更前のグループで話し合った解答とその理由を一人ずつ伝えあう役割を全員に求めた。伝えるべきことをまとめる時間が足りずに、伝えられない生徒が数名いた。今後は、伝えることをまとめる時間を増して、全員が責任を果たせるようにしたい。

④ 協同学習スキル

相手に分かりやすく話すスキルを身に付けるために、話し合った内容を変更後のグループに伝える内容をメモに取る時間を設けた。メモを見ながら相手に分かりやすく話すことができた。しかし、伝える内容をメモできずに伝えられなかった生徒が数名いたので、メモを取る時間を十分に確保すること、メモを取るように言葉掛けや支援をすることをしていきたい。また、相手の話を聞くスキルとして、相手の顔を見ながら聞くこと、話をしている途中で割り込んで話さないことを伝えた。ほとんどの生徒はできたが、集中力が続かなくなり相手の顔を見られなくなった生徒が数名いた。今後は、解答を記入する用紙をグループに一枚ではなく、全員に配布して記入させて、用紙と相手の顔の両方を見ながら話を聞くように指導していきたい。

⑤ チームの振り返り

話し合う時間を延長したり、生徒が集まらずに開始時間が遅れたりしたので、生徒同士の振り返りの時間は持てず、指導者が振り返りを主導した。グループでの振り返りをする時間を確実に確保する必要があった。今後は、編成前のグループの問題を2問から1問にしたり、内容をもっと精選したりすることで、ゆとりある授業展開ができるようにしたい。

3 学年 生活単元学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	社会人としてのくらし方② (携帯電話の危険性)	生 徒	3年生徒20名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成29年12月7日(木)3～4校時	指 導 者	T1:石川 T2:田中博 T3:鐘ヶ江 T4:岩城 T5:泉谷

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・金銭管理、働くこと、携帯電話の使い方など、卒後の生活に直結した知識を身に付けることができる。
- ・卒後の生活の中で、どのようなことが便利で、不便で、注意点になるのかを自分の言葉で説明することができる。
- ・自分の役割を自覚し、責任を持って活動に参加することができる。

(本時の目標)

- ・テーマ別にまとめたことを全体で発表し合い、携帯電話の危険なことや回避方法、対処方法について理解を深めることができる。
- ・協力してグループで話し合い、意見をまとめることができる。

2 生徒について

- ・積極的に発言したり、課題を真面目に取り組んだりする生徒が多い。
- ・携帯電話を卒業後に持ちたいと考えている生徒が多い。
- ・活発に話し合いを行う生徒が多いが、自発的に役割を見つけられない生徒もいる。

3 指導計画

- 第1回 12月 4日 : 社会の制度から働くことを考える
 第2回 12月 6日 : 給料の正しい使い道、携帯電話の便利性
 第3回 12月 7日 : 携帯電話の危険性(本時)
 第4回 12月11日 : 衣食住の自立からはたらくことを考える
 第5回 12月13日 : 社会人としてどう生きていくかを考える

4 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 10分	・整列 ・挨拶	・スクリーンを見て、自分の席を確認してAからEグループに分かれて座る。(1グループ=4人) ・生活家庭科日直が号令を行う。	・最初のグループをスクリーンに映す。 ・生活家庭科日直に号令するように促す。	・プロジェクター ・パソコン ・パワーポイント

	・ 本時の説明	・ 本時の目標を確認する。 ・ 本時の学習の流れを確認する。 ・ 話し合うときの注意点を確認する。	・ 本時の目標を黒板に掲示する。 ・ パワーポイントを使用して分かりやすく伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ プロジェクターを使い、授業の流れやポイントを視覚的に分かりやすく提示する。(配慮⑫、⑬) ・ 後日に、まとめたプリントを一つにして配布することを伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 別なテーマを各グループでそれぞれまとめて全体で発表し合い、多方面の観点から補完し合う。(①) ・ 話し終わったら、最後に「以上です。」と発言し、話し終わったことを他生徒に伝えることを確認させる。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 他の人の意見を聞くときには、途中で話に割り込まずに、「以上です。」という言葉聞いてから自分の意見を言うように指導する。(④)	・ 掲示用プリント
展開 85 分	・ グループ活動	・ プリントに名前を記入する。 ・ 役割分担をする。 4 名ずつの 5 グループ、司会、記録、発表（危険性の発表 1 名と回避方法と対処方法の発表 1 名）	・ プリントを配布する。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 授業展開に沿ったプリントを使用して見通しを持たせる。(配慮⑭) ・ 役割について説明し、グループ内で担当を決めること伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 話し合いで、全員が何かの役割を持てるようにする。(③)	・ プリント ・ 白板 ・ パワーポイント

	- 各グループのテーマに対する危険なことと回避方法、対処方法を個人でまとめる。 A：キャッシュレス決済 B：依存症 C：ラインやメール D：個人情報流出 E：破損紛失 - 個人でまとめた意見を基に、各グループで話し合う。 - 前半の話し合いを振り返り、グループで評価する。 - 後半に向けて、改善する。 - 各グループのテーマ別にグループでの話し合いを再開する。	- 自分の意見を箇条書きで書いてまとめるように伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> - 生徒が自分の意見をまとめられないときは、意見が出るように言葉掛けをして意見を引き出す。 (配慮⑨) - 発言するときは、相手が「以上です。」と言ってから話すことを再度確認させる。 <協同学習の要素や配慮事項> - テーマに沿って、グループの全員が意見を出し、話し合って一つの意見にまとめる。(②) - 自分の役割を果たしているかを確認する。 <協同学習の要素や配慮事項> - プリントの項目に沿って、自分のグループの話し合いや発表をグループで評価する。(⑤) - 話し合うときの注意点を再度確認させる。適宜言葉を掛ける。 <協同学習の要素や配慮事項> - 前半の話し合いよりも良くできるように、改善しながら話し合う。(②)	
・発表	- まとめたことを発表する。 - 他グループのテーマに関する意見を聞き、より深く学習する。	- みんなに見える位置に移動して発表させる。 <協同学習の要素や配慮事項> - 話す人の顔を見て聞くように指導する。(④) - 後日の配布資料として、白板をデジカメで撮影する。	・デジカメ

整理 5分	・ 振り返り ・ 挨拶	・ グループで、後半の話し合いで良かったことや改善点を話し合う。 ・ 生活家庭科日直が号令を行う。	・ グループでの活動をグループで評価する。 ・ 個人の評価ではないことに気を付けさせる。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 前半の評価と後半の評価を比べて評価する。(⑤) ・ 時間があれば、その評価を全体に発表させる。 ・ 全体の評価を話し、後日グループでまとめたことを配布することを伝える。 ・ 生活家庭科日直に号令するように促す。	・ プリント
----------	--	--	--	--

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

携帯電話の危険性を5つのテーマ別に分けて、一つのテーマに一つのグループが担当するように設定した。その後、それぞれまとめたものを5グループが発表し合い、テーマ別の携帯電話の危険性とその回避方法を全員で学び合うように設定した。

② 対面的なやりとり

グループ活動の前に個人の意見をまとめる時間を設定した。その意見を基にグループ活動における対面的なやりとりがスムーズに行えるようにした。また、指導者が適宜言葉掛けを行うことで、よりスムーズなやりとりができるように設定した。

③ 個人としての責任

1グループの4名全員に司会1名と記録1名、発表2名の役割を与えるように設定した。グループ内で、話し合い役割の担当を決めることで、個人に責任を持たせ協力して課題を解決するように促した。

④ 協同学習スキル

分かりやすく話すスキルを身に付けるために、話し合う内容を事前にプリントにまとめさせる。話をしている最中に割り込まないように話し終えたときに、「以上です。」と付け足すことで話が終わったことを他の人に伝えるようにする。

⑤ チームの振り返り

グループ内で評価する時間を設けるために、グループでの話し合いの内容を精選した。また、チームの振り返りがスムーズにできるように、振り返るポイントをプリントで配布し、短時間で振り返りができるように工夫した。

6 指導の効果

導入や展開の流れの区切りのときに、時間配分を含めた授業の全体の流れを視覚的に確認しながら進めたことで、見通しを持ちながら活動することができた。また、テーマ別にそれぞれのグ

グループが話し合いまとめ、それを発表し合うことで全員がすべてのテーマを学習することを明確にしたことで責任感が増し、目標に向かって各グループで一つのテーマをまとめる活動より積極的に取り組むこともできた。さらに、話し合いの前に自分の考えをまとめる時間を設けたので、話し合いの活動がスムーズに行うことができた。展開の始めには、グループ内で相談しながら個人の役割を分担したことで、より個人が責任を持って役割を果たすことができた。

話し合いの内容を精選することで、時間にゆとりが生まれてグループでの話し合いを十分に行うことができた。前半のグループの話し合い後に、振り返りの場面を設定したことで後半に向けての改善する方法を見付けて、後半の話し合いに生かすことができた。

7 今後の課題

グループで担当したテーマをまとめたことを発表し合い、全てのテーマを学ぶように設定した。しかし、発表の時間が少なすぎて互恵的な相互依存関係の良さが余り発揮されなかった。授業全体を通して、話し合いの時間に余裕があったので、話し合いの時間を少なくして発表の時間の配分を多くする必要がある。このようにすることで、より発表し合いながら全員で深く学ぶことができると思う。

協同学習スキルの設定では、相手の話を最後まで聞くために話の終わりに「以上です。」と付け足すことを全員に指導したが、相手の話を最後まで聞ける生徒にとっては、逆行した指導になってしまった。生徒の実態別にグループ分けを行っていたので、グループ別での協同学習スキルを設定した方が、より生徒のニーズに合ったスキル向上につながったのではないかと考える。

※ 授業を振り返って

協同学習を行ってみて、題材の設定が何よりも重要であることを実感した。題材が難しすぎると話し合いに時間を要して振り返りができなくなり、簡単すぎると話し合いが速く終わり時間を持て余してしまうからである。生徒の実態をしっかりと把握して、題材を決定しなければいけないと考える。また、前回の協同学習はジグソー学習を取り入れた授業を行い互恵的な相互依存関係を設定したが、グループを変更して再度話し合うと時間が掛かりすぎてしまい、十分な振り返りを行うことができなかった。グループを組み変えて発表する展開を全体で発表する展開に変えて行うことで、グループで題材をより深く話し合う時間と振り返りを行う時間が十分に確保することができた。個人の責任については、グループ活動を行う前に自分の役割を決めることができたので、全員が責任を持って役割を果たすことができていた。

協同学習を行うことで、生徒が主体的に活動して深い学びを得ることができる手応えを感じた。生徒の実態に合った題材や協同学習スキルの設定や振り返る時間を確保するための時間配分を改善することで、より良い協同学習になるように改善を続けていきたい。

実践レポート

単元・題材名 (授業名)	社会人としてのくらし方②	生 徒	3学年 生徒数20名
		場 所	縫工室
日 時	平成29年12月4日 3～4校時	指 導 者	T1:岩城 T2:鐘ヶ江 T3:田中、泉谷、石川

① 互恵的な相互依存関係

今回の授業は生徒の身の回りを取り巻く制度（療育手帳）や状況（人口減少、税金の増加）、今後必要となる制度（障害年金、生活保護）について生徒が学ぶことを中心とした授業構成にした。授業が進み、納税者に支えられていた事実を知ったあたりから、今からどのようなことに気を付けて行動していかなければいけないか、また、卒業後は自分も納税者になるという事実を知りながら学習に取り組むことができた。

② 対面的なやりとり

授業の展開のきっかけとして、療育手帳を所持していることで受けられるサービスについて話し合う活動を設けた。公共交通機関の利用料が割引になる他に、映画館やカラオケで使ったことがある生徒の発言をきっかけに、どのような場所でどのように提示することで利用できたのかという話題や見学旅行での療育手帳を使ったことなどの話題が上がり、療育手帳の活用法についての話し合いを活発にすることができた。

③ 個人としての責任

授業後の感想では「将来の生活に必要な知識を残りの学校生活でできるだけ身に付けたい。」「卒業後の生活が苦しくならないように、働く力だけでなく、お金を計画的に使ったり、貯蓄したりするような生活する力も身に付けていきたい。」「水や電気など無駄使いをしないように行動する。」「選挙に行く。」といった責任ある行動を具体的に記入する生徒がみられた。

④ 協同学習スキル

交通費を始めとして、授業料や教材費、就学奨励費、道路や公園、公共施設などの整備・維持管理に関する費用など、生徒の身の回りのものの多くは税金で作成、維持・管理されているものを伝えた。この説明を聞き、生徒の多くは驚き、知らず知らずのうちに納税者に支えてもらっていた事実を知ることができた。支えてもらっていた事実を知ったうえで今後、どのように行動していくかを考えるように伝えたところ、「自分は何をすべきか」「自分に何ができるか」について仲間同士で話し合うことができた。

⑤ チームの振り返り

学習内容の確認のために、療育手帳の財源や税金、障害年金や生活保護についての説明を行うごとに短い振り返りの時間を設けた。生徒の多くが療育手帳の財源として税金が使われていること、また、税金は働いている人の給料から集められていること、そして、多くの人に支えられながら学校生活を送っていたことに気付くことができた。また、授業の最後に感想を聞いたところ、ほとんどの生徒が「支えられていたことに気が付かなかった。」「自分も働いて税金を納められるようになりたい。」「税金が無駄にならないように行動したい。」という感想をもった。

3 学年 生活単元学習 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	社会人としての暮らし方② (衣食住について)	生 徒	3年生徒 20 名
		場 所	視聴覚教室
日 時	平成29年12月13日(水)5校時	指 導 者	T1:岩城 T2:田中博 T3:鐘ヶ江T4:泉谷 T5:石川

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・金銭管理や働くこと、携帯電話の使い方や調理など、卒後の生活に直結した知識を身に付けることができる。
- ・卒後の生活の中で、便利なことや不便なこと、生活するうえでの注意点について自分の言葉で説明することができる。
- ・自分の役割を自覚し、責任を持って活動に参加することができる。

(本時の目標)

- ・衣食住について理解することができる。
- ・衣食住について自分の考えをまとめ、仲間と話し合うことができる。
- ・衣食住を充実させる必要性について前提実習を振り返り、理解することができる。

2 生徒について

- ・積極的に発言をしたり、課題にまじめに取り組んだりする生徒が多い。
- ・話し合い活動に活発に取り組む生徒が多いが、自発的に役割を見つけられない生徒もいる。
- ・卒後の生活を意識し、必要な技能や知識を身に付けたいという意欲をもつ生徒が増え、個々の課題の改善に自発的に取り組む状況が増えてきている。

3 指導計画

- 第1回 12月 4日：社会の制度を知り、働くことを考える。
- 第2回 12月 6日：給料の正しい使い道、携帯電話の利便性
- 第3回 12月 7日：携帯電話の危険性
- 第4回 12月11日：生活スキルを上げる①自分の料理のレパートリーを増やそう
- 第5回 12月13日：衣食住の観点から自立を考える。(本時)
- 第6回 12月14日：経済的・社会的・精神的・性的の観点から自立を考える。
サポートを受けながら働くことについて考える。
- 第7回 12月18日：生活スキルを上げる②調理学習
- 第8回 12月20日：単元のまとめ

4 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 5分	・整列 ・挨拶 ・本時の説明	・前時と同じ場所に着席する。 ・農業科日直が号令を行う。	・前時と同じ場所に着席するように促す。 ・農業科の日直に号令するように促す。	・プロジェクター ・パソコン ・掲示プリント

		・本時の目標を確認する。	・本時の目標を黒板に掲示する。 「与えられたテーマについて自分の意見をもつ。」 「仲間と話し合い、共通点を確認する。」	
展開 40分	・予備知識を取り入れる。 ・知識の整理 ・他者の意見の確認 ・意見をまとめる ・話し合ったことの発表 ・予備知識を取り入れる。 ・知識の整理	・教師の発問に答える。 ・資料を見る。 ・発問について自分の考えをまとめる。 ・自分や仲間の考えを確認しあう。 ・共通しているところが多かった考えを確認する。 ・グループで話し合った内容を発表する。 ・MTの指示を聞く。 ・資料を見る。 ・発問について自分の考	・「衣食住」について知っていることを生徒に発問する。 ・「衣食住」についての資料を見せる。 <協同学習の要素や配慮事項> ・パワーポイントで資料を提示しながら説明を行い、考えるポイントについて分かりやすく提示する。(配慮⑮) 【発問】「被災者の多くが、まず着替えたかったと答えた理由を考えてください。」 (2分) 【発問】「グループで仲間の考えを確認してください。」 (2分) <協同学習の要素や配慮事項> ・進行役を決めたり、話し合いが円滑に進むように一人一人が役割を見つけたりして活動に取り組むように促す。(配慮①) 【発問】「仲間の意見で共通しているところを確認してください。」 (3分) ・グループで話し合った内容を発表するように指示を出す。 《説明》「与えられたテーマに対して自分の考えをもつことが大事。また、仲間との共通点を見つけ出すことも今後、仕事をしていくうえで必要となってくる。」 ・「衣食住」についての資料を見せる。 【発問】「衣食住の“衣”について	

		えをまとめる。	のあなたの意見をまとめてください。」 (1分) ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・“衣”に関するマナーが自分の生活に与える影響について考えるように促す。(配慮⑫)
・他者の意見の確認 ・意見をまとめる	・自分や仲間の考えを確認しあう。 ・共通しているところが多かった考えを確認する。	【発問】「グループで仲間の考えを確認してください。」 (1分) 【発問】「仲間の意見で共通しているところを確認してください。」 (2分) ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・共通箇所が自分たちの生活にどのように影響しているのかを確認し合うように促す。(配慮⑫)	
・話し合ったことの発表 ・予備知識を取り入れる ・知識の整理	・グループで話し合った内容を発表する。 ・資料を見る。 ・発問について自分の考えをまとめる。	・グループで話し合った内容を発表するように指示を出す。 ・「衣食住」についての資料を見せる。 【発問】「衣食住の“食”についてのあなたの意見をまとめてください。」 (1分) ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・マナーや栄養(安全)の観点で“食”について考えるように説明する。(配慮③)	
・他者の意見の確認 ・意見をまとめる	・自分や仲間の考えを確認しあう。 ・共通しているところが多かった考えを確認する。	【発問】「グループで仲間の考えを確認してください。」 (1分) 【発問】「仲間の意見で共通しているところを確認してください。」 (2分) ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・共通箇所が自分たちの生活にどのように影響しているのかを確認し合うように促す。(配慮⑫)	

	・話し合ったことの発表 ・予備知識を取り入れる ・知識の整理 ・他者の意見の確認 ・意見をまとめる ・話し合ったことの発表 ・学んだことをまとめる	・グループで話し合った内容を発表する。 ・資料を見る。 ・発問について自分の考えをまとめる。 ・自分や仲間の考えを確認しあう。 ・共通しているところが多かった考えを確認する。 ・グループで話し合った内容を発表する。 ・発問について自分の考えをまとめる。	・グループで話し合った内容を発表するように指示を出す。 ・「衣食住」についての資料を見せる。 【発問】「衣食住の“住”についてのあなたの意見をまとめてください。」 (1分) ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・今後の自分の生活に“住”に関するマナーや習慣が与える影響を考えるように促す。(配慮⑫) 【発問】「グループで仲間の考えを確認してください。」 (1分) 【発問】「仲間の意見で共通しているところを確認してください。」 (2分) ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・共通箇所が自分たちの生活にどのように影響しているのかを確認し合うように促す。(配慮⑫) ・グループで話し合った内容を発表するように指示を出す。 【発問】「“衣食住”を充実させることがあなたにとってどのような影響があるかを考えてください。」 (3分) ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・本時で学んだことが今後の自分の生き方にどのように生かされるかの視点で考えるように促す。(配慮⑫)	
整理 5分	・本時のまとめ	・MTの話を聞く。 ・ワークシートに感想を記入して提出する。	《説明》「“衣食住”について決まりやマナーがあるが、考え方は人それぞれである。相手に不快な思いをさせない行動がとれることが大切である。」 ・ワークシートに感想を記入して提出するように伝える。	

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

“衣”“食”“住”のテーマについて、個人の考えを出し合い、グループ内での共通点を見つけだす状況を設定した。共通点を見つけるために仲間で話し合い、確認する過程は実生活でも活用できるという説明につなげることを生徒に理解させる。

② 対面的なやりとり

話し合い活動の前にテーマに対し、個人の考えをまとめる時間を設定した。互いの考えの違いを認めつつも共通点を見つける活動を通し、「仲間の話を聞く。」「考えをまとめる。」という活動の場を設定した。また、前々回の学習を今回に生かす意識を生徒にもたせた。

③ 個人としての責任

グループ内で話し合い、司会や記録、発表の役割を与えるように設定した。役割を与え、発表の場を設定することでグループとしての考えをまとめるという目標のために自分が果たす責任をもたせるようにした。

④ 協同学習スキル

話し合いを進めやすくするために、「全員が話す。」「話を聞くときは最後まで聞く。」「相づちをする。」「できるだけ対案をだす。」などの行動をするように生徒に伝えた。

⑤ チームの振り返り

前々回の活動の振り返りを生かせるように同じ状況を設定した。話し合いに入る前にそのことを生徒に伝え、チームのために主体的に取り組む意識を高めるように配慮した。

6 指導の効果

テーマに対する個人や仲間の意見の中から共通点を探す活動を通し、自分の意見を相手に分かりやすい内容にまとめてから発表することができた。また、生徒によっては伝えたい箇所を協調することもできた。

意見を発散し、集約するという話し合いの過程は物事に取り組むときの手立てを考えることにも置き換えられると気付く生徒がいた。

同じような活動を複数回繰り返すことで、効率的に話し合いを進めることができるようになった。

個人の意見の集合を集団の意見とする条件を設定することで発言に責任を持つ生徒が見られるようになった。また、反対するだけでなく、対案を考えるようにしたことと建設的に話し合いを進めることができた。

7 今後の課題

同じ活動を複数回繰り返すことでコツをつかみ、効率的に活動することができた生徒が限定されていた。教師が意図的に生徒同士の学び合いを発生させる状況を設定する必要がある。

個人の責任を明確に提示し、取り組んだ結果が全体に反映されたり、周知できたりする活動を設定した方がよい。(意図的に活動を組まないと、人任せで済んでしまう活動になってしまう可能性もある。)

チームの振り返りの時間は継続して確保していく。そのことによる生徒の変容を捉えられると協同学習の効果を把握しやすいと感じた。

※ 授業を振り返って

意図的に活動内容を組み立てる難しさを感じた。授業の目標を達成させるために学習内容を設定する流れは変わらないのだが、協同学習の要素に則した活動を考えるために授業者の方での学習が必要と感じた。

生徒の学習活動への指示が抽象的であったり、一貫していない箇所があったりしたので以降は気を付ける。

協同学習を効果的に構成できれば、生徒同士の学びあいが深まったり、一人一人の力量が付いたりするが、授業者の力量次第では生徒の個人の責任が分かりにくくなるとも感じた。

氏名：_____

① 「被災者の多くが、まず着替えなかったと答えた理由を考えてください。」

あなたの考え
仲間の考えと共通していたところ

② 「衣食住の“食”についてのあなたの考えをまとめてください。」

あなたの考え
仲間の考えと共通していたところ

③ 「衣食住の“住”についてのあなたの考えをまとめてください。」

あなたの考え
仲間の考えと共通していたところ

④ 「“衣食住”を充実させることがあなたにとってどのような影響があるかを考えてください。」

--

・グループでの話し合いは

(とても良かった / 良かった / 悪かった / とても悪かった)

(とても協力的だった/協力的だった/協力的ではなかった/とても協力的ではなかった)

(前回よりも改善できた/あまり改善できなかった/前回と変わらない/前回の方がよかった)

1 学年 総合的な学習の時間 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	社会見学	生 徒	全学科1年生徒24名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成29年10月12日(木)2～4校時	指 導 者	T1:高山 T2:住谷 T3:中市 T4:海田 T5:村瀬 T6:西脇

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・ 得た経験や知識を振り返り、自分自身は3年間でどのように学び、成長していきたいかを考えることができる。
- ・ 壁新聞を作るための自分の役割を理解し、仲間と協力して取り組むことができる。

(本時の目標)

- ・ 壁新聞づくりの目的や約束を知ることができる。
- ・ 社会見学で学んできたことを振り返り、全員で協力して壁新聞にまとめることができる。

2 生徒について

- ・ 個人で考えたり、内容をまとめることができる生徒が多い。
- ・ これまでの学習を通して話し合い活動を多く行ってきたことで、発言したり、意見をまとめたりすることができる生徒が増えてきている。
- ・ 現場実習を通して、積極的に活動する生徒が増えてきたが、役割に最後まで責任をもって活動できない生徒もいる。

3 指導計画

第1回 10月10日 : 社会見学オリエンテーション

第2回 10月12日 : 壁新聞づくりの説明、壁新聞づくり (本時)

第3回 10月17日 : 前時の続き

第4回 10月19日 : 壁新聞発表、単元のまとめ

4 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 5分	・ 挨拶 ・ 本時の説明	・ 学級ごとに着席する。 ・ 代表者が号令を行う。 ・ 本時の説明を聞く。	・ 社会見学を通して学んだことを壁新聞にまとめるということを確認する。一人一人が役割を果たすように伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 学級全員で協力し、一人一人が役割を果たすことで壁新聞が完成することを伝える。(①)	

展開 135分	- 壁新聞にまとめる内容を確認する - 個人で振り返り、まとめる - 新聞の基本を知る - 役割分担 - 作成開始	- パワーポイントや見本を見ながら、説明を聞く。 - しおりやメモを見ながら社会見学で学んだことを振り返り、プリント①にまとめる。 - 新聞を見ながら、どのような特徴があるかを個人で考え、学級ごとに共有する。共有した内容は、全体に発表する。 - 学級ごとに各自の役割を明確にする。 - 個人でまとめたプリントを参考に情報収集を行い、記事をまとめる。 - 記事の内容がまとまったら、個人で確認する。確認後は、学級の生徒も内容を確認し、最終	- 壁新聞にまとめる内容を確認する。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ - パワーポイントや見本を視覚的に示す。(配慮⑫) - T 2～6 は机間巡視を行い、悩んでいる生徒に対し、助言を行う。 - 新聞を提示し、どのような特徴があるのか考えさせる。 - T 2～6 は机間巡視を行い、悩んでいる生徒に対し、助言を行う。 - 発表後、T 1 は各学級にプリント②を配布するとともに、講評と壁新聞をする上で意識して作成してほしいことを伝える。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ - 全員で話し合い、どのような特徴があったか話し合い、学級で挙げた意見をまとめる。(②) - 生徒全員に役割があること、役割には責任が伴うことを確認する。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ - 生徒同士で話し合い、役割分担をする。(③) - 個人の役割を明確にし、活動に見通しをもたせるとともに、役割に対する責任感をもたせる。(③) - T 2～6 は机間巡視を行い、悩んでいる生徒に対し、助言を行う。 - 記事の内容は、個人で確認して間違いがなければ、担任に確認してもらうように徹底する。	- 見本 - プロジェクター - パソコン - プリント① - 新聞 - ホワイトボード - プリント② - ペン - 模造紙 - 筆記用具
--------------------	---	---	--	---

		確認は担任にしてもらう。 記事が完成した生徒から模造紙に清書していく。	- 困っている人がいる場合には、生徒同士で相談するように伝える。 - 適宜休憩時間を設定する。 <協同学習の要素や配慮事項> - 壁新聞の完成に向けて、各自が自分の役割に責任をもち、記事をまとめる。(③) - 困っている仲間がいる場合には、助け合う。(②) - 個人でまとめたプリントの中から記事の作成に必要な情報を選ぶことができる。(④)	
	・後片付け	・協力して、後片付けを行う。	・教室全体がきれいになっているか、確認させる。	
整理 10分	- 振り返り進捗状況確認 - 本時のまとめ - 次時予告 - 挨拶	- 学級ごとに、各担当がどこまで進んでいるのかを確認する。 - T 1 の話を聞く。 - 次回の内容を知る。 - 代表者が号令を行う。	- 全体の進捗状況を把握する。 <協同学習の要素や配慮事項> - 壁新聞の進捗状況を確認するとともに、学級全員が本時の活動を振り返る。(⑤) - 本時全体の活動の様子を振り返り、講評をする。 - 次回の内容を伝える。	

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

学級の生徒8名で壁新聞の完成に向けて取り組む学習を設定した。これまでも、生活単元学習の中で壁新聞を作成してきたが、道新総合印刷で新聞ができるまでの過程を学んできたことから、様式を実際の新聞に似せて作成するように、以前よりも難易度を高くした。そのため、以前よりも全員で協力しなければ完成できないような課題としている。

② 対面的なやりとり

新聞にはどのような特徴があるのか個人で考えさせ、仲間と共有する場面を設定した。仲間と話し合うことで自分の考えだけではなく、広い視野で壁新聞作成の要点を知るようにした。

一人で考える力も大切であるが、仲間と情報を共有し、話し合うことで得られる情報が成功につながる体験をさせるために、活動全体を通して、生徒同士で相談するように授業を設定した。

③ 個人としての責任

壁新聞の作成にあたり、個人の役割を明確にした。また、教師が決めるのではなく、仲間

同士で話し合い、決定するようにした。それぞれが記事を担当することで、一人一人が記事を正確に作成しなければ、壁新聞が完成しないという状況を設定した。これまでも壁新聞づくりを行ってきたが、「誰かがやってくれる」という環境にあったため、一部の生徒の負担が過重になることがあった。また、現場実習を通して、一人一人の積極性や責任感が高まってきたことから、現場実習の成果を生かすためにも個人の役割を明確にした。

④ 協同学習スキル

壁新聞の記事を作成するために、生徒が個人で社会見学を通して学んだことを振り返り、プリントにまとめる。そのプリントを見ながら担当生徒が必要な情報を選ぶこととした。情報を整理・選択する力を養うことを目的としている。

また、教師は常に机間巡視を行い、必要に応じて助言を行う。話し合い活動の中で、教師が話し合いを進めるのではなく、生徒同士の話し合いが円滑に進むように指導を行う。

⑤ チームの振り返り

進捗状況を確認する場面を設定した。本時の進捗状況を共有することで、壁新聞完成までの見通しをもたせる。また、必要に応じて生徒同士で助け合い、完成に向けて考えさせる。

6 指導の効果

社会見学を通して学んだことを学級の生徒8名で壁新聞の完成に向けて取り組む学習を設定した。完成させるために、「互恵的な相互依存関係」、「対面的なやりとり」、「個人としての責任」の要素が必須となった。また、事前学習から「壁新聞を作成すること」、「個人に役割や責任があること」を生徒に伝えたことで、学級全員で協力し、一人一人が役割を果たすことで壁新聞が完成することを明確にし、目的意識をもたせることができた。また、全員が社会見学の中でメモを取る姿が見られた。

本時では、壁新聞作成に向けての説明と社会見学の振り返りを行った。個人で社会見学を通して学んだことをプリントで振り返り、記入したプリントは、記事作成の責任者が保管することとし、記事の内容だけではなく、記事作成の全般に責任があることを明確にした。記事作成の責任者は、プリントの中から記事に必要な情報を選択し、文章構成をするという協同学習スキルの中でも考えるスキルを必要とした。

役割分担を話し合いで決めることにより、全員が役割を把握することができ、責任があることを自覚させることができた。

授業のまとめでは、学級ごとに進捗状況を確認し合い、完成までの見通しを立てる活動を取り入れた。その活動を通して、個人の作業だけではなく、チームとして活動していることを再認識する時間を設定した。

7 今後の課題

話し合い活動を何度も経験してきていることから、話し合い活動の中でのルールを決めなかったが、より円滑な活動にするためにも今後は「必ず1回以上発言する」などのルールを設定することが必要である。

「新聞の基本を知る」という活動の中で、新聞の特徴を話し合った際に、教師の予想以上に生徒が考えを深めることができたため、T1から提示した「作成にあたって気をつけてほしいこと」とのつながりが弱くなってしまった。提示する内容と生徒が考えた内容を結びつけるためにも、生徒の回答を幅広く予想したり、話し合いの要点を提示したりすることに今後留意する。

※ 授業を振り返って

1 学年については、生活単元学習に限らず、LHRや国語などをはじめとする様々な授業において協同学習を取り入れていることにより、活発な話し合いができるようになってきた。今後、話し合う内容や方法などを1 学年から少しずつ段階を踏みながら発展していくことで、よりよい協同学習が行えるのではないかと考える。

実践レポート

単元・題材名 (授業名)	進路の学習② 働く適性について「求人票を作ろう①」	生 徒	生活家庭科2年生徒8名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成29年8月31日(木)4校時	指 導 者	T1:上村

① 互恵的な相互依存関係

福祉サービス事業所の求人票を、個人の活動ではなく、全員が意見を出すなど協力することで完成させるという題材を設定した。本時はその前段の作業として、自分に向いている職業を仲間に聞いてワークシートを完成させる活動を行った。それを元に、この後どのような福祉サービス事業所の求人票を作成するのかの判断材料作りを行った。

② 対面的なやりとり

自分に向いている職業を聞く生徒が司会・記録担当になって仲間に意見を聞き、ワークシートに記入した。質問された生徒は、理由を添えて必ず答えることにした。時間の関係で全員が司会・記録担当を行うことや、全員が司会・記録担当から指名されて答えるということができなかったが、本時の中で全員が一度は発表をして、活動に参加することができた。

③ 個人としての責任

司会・記録担当がワークシートを完成させるためには、質問されたら必ず答えてあげようと伝えたところ、全員が答えを言うことで責任を果たすことができた。なお、生徒によっては T1 から司会・記録担当に指名し、質問の原稿を読むことや指示棒を用いて仲間を指名することができた。また、仲間の答えを T1 がメモをとり、それを書き写すことで自分のワークシートを完成させることで自分の責任を果たすことができた。

④ 協同学習スキル

授業の内容から外れた言動が出ることがあるため、要所で仲間の発言を良く聞くように言葉がけを行った。また、質問に対して的外れな答えがあったとしても、それに否定的な態度をとらないように言葉がけを行った。それにより授業の内容に合ったやりとりになった。また、質問に対して正確に答えられるよう、答えの選択肢となる資料を配付し、答えに困った場合はその選択肢から選ぶようにしたことで、多くの発表の場面を作ることができた。

⑤ チームの振り返り

生徒が主体で振り返ることが難しいため、教師の講評により本時の活動を振り返った。その中で、生徒から本時の感想を聞き、意見を聞かれたときに、自分の意見を言えたこと、仲間から自分では思いの寄らない意見がもらえたことなどを生徒自身の言葉で振り返ることができた。

2 学年 総合的な学習の時間 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	進路の学習② 働く適性について「求人票を作ろう③」	生徒	生活家庭科2年生徒8名
		場所	視聴覚室
日時	平成29年9月15日(金)3校時	指導者	T1:上村

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・自分の能力や適性を踏まえて、将来の職業について具体的に考えることができる。
- ・卒業後に働くために必要な知識や技能を理解することができる。
- ・自分や他者の職業適性を説明することができる。
- ・自ら情報を収集し、まとめ、発表することができる。

(本時の目標)

- ・自分の役割を果たし、みんなで協力して求人票を作成することができる
- ・施設見学を振り返ることができる。
- ・福祉的就労に必要な力を考えることができる。

2 生徒について

- ・明るく元気で、自分の興味があることに対して積極的に会話しようとする生徒が多い。
- ・反面、学習の場面では積極的な発言や、主体的に行動する様子が少なくなる。
- ・言語理解力が低いことや、集中力の持続が難しい生徒が多いため、理解できたかどうかの確認に時間を要することが多い。
- ・人の話を聞いてメモをとることが難しい。教師が何度も反復したり、板書したりすることで時間はかかるが行える生徒が多い。

3 指導計画

- 第1回 8月30日 : オリエンテーション、進路指導部より今後の進路の流れについて講話
- 第2回 8月31日 : 働く適性について～求人票と本校卒業生の一般就労先企業の説明
クラスの仲間から自分の適職を聞き、まとめる
- 第3回 9月 1日 : 働く適性について～前時の続き、簡易求人票の作成
- 第4回 9月 8日 : 作業強化日事前事後学習
- 第5回 9月13日 : 施設見学事前学習
- ※ 9月14日 : 2学年施設見学～江差福祉会関連施設
- 第6回 9月15日 : 働く適性について～江差福祉会の簡易求人票の作成と発表(本時)

4 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 5分	・挨拶 ・本時の学習内容の説明	・日直が号令を行う。 ・本時の学習内容の説明を聞く。	・日直に号令させる。 ・施設見学で収集した情報で求人票を作成することを説明する。	
		<協同学習の要素や配慮事項> ・施設見学で収集した情報から1つの求人票を全員で協力して完成させる。(①)		

展開 35分	・役割の確認	・役割分担を確認する。	・事前に決めた各自の役割は何かを聞き、確認させる。	
	・求人票作成	・司会者を中心に求人票の作成を始める。記録者以外の生徒は発表者に注目して話を聞き、訂正や不足があれば教える。	・求人票の作成を始めるよう伝える。記録者以外の生徒は、発表者に注目して話を聞き、訂正や不足があればそれぞれの発表の後に挙手をし、自分の調べた情報を教えるよう伝える。	求人票枠
	・発表練習 ・チームの振り返り	・4校時の発表練習を行う。発表者以外は注目して話を聞き、感想を言う。 ・本時の学習の振り返りを行う。	・発表者の練習をさせる。ホワイトボードの前に発表者を立たせ他の生徒の前で発表させる。他の生徒は発表を良く聞き、感想を言うよう伝える。 ・本時の求人票の作成を協力して行えたかどうかを確認する。	

整理 5分	・次時について ・挨拶	・学年で集まり、単元の まとめを行う。 ・日直が号令を行う。	・単元を通して働く適性について 考えた学習を振り返ることを伝 える。 ・生活家庭科の日直が号令させる。	
----------	--------------------	--	--	--

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

施設見学を行った福祉サービス事業所の求人票を完成させるという題材を設定した。個人で作成するのではなく、見学の事前学習で、質問事項や質問者をあらかじめ決め、その収集した情報から全ての項目を埋めることで、全員が協力しないと完成しない関係を作った。

② 対面的なやりとり

記録者以外の生徒は、発表者に注目して話を聞き、間違っている情報や、情報に不足があればそれぞれの発表の後に自分の調べた情報を教えるように促した。

③ 個人としての責任

本時の中で、司会、記録、施設見学で収集した情報の発表、学年全体への発表と、個々の役割を明確にした。それにより、各自が役割を果たすことで求人票が完成できるようにした。

④ 協同学習スキル

先生や友だちが話しているとき、話し手を見て、話を最後まで聞くことができる。見たことや知らせたいことについて、必要なことを落とさないで、人に伝えることができる。みんなの考えを一つにまとめて表すことができる。これらのために、集中力の持続が難しいため、要所で仲間の発言を良く聞くように言葉がけを行うことや、短い時間で作成しなくてはならないことから、円滑な司会進行ができるように、発表の言葉に詰まっている生徒には発言を引き出すような助言を行う。

⑤ チームの振り返り

司会者を中心に、全員が協力して求人票を完成させられたかどうか、事前訪問先での情報収集でも役割を果たし、本時の中での確に情報提供できたかどうかを、まず生徒同士で振り返り、その後、教師からの講評による振り返りを行う。

6 指導の効果

授業の導入で、全員の協力で求人票を完成させること、発表を良く聞いて情報の間違いや不足があれば教えることを伝えたことで、各自が役割を意識して授業に参加することができた。

司会の生徒に進行原稿を渡したことにより、スムーズな司会で、生徒主体で作業を進めることができた。その他の生徒も自分の役割や責任を果たして発言を行い、欠席者が調べた情報も、事前にお問い合わせされていた仲間がフォローし、授業の中で落とさずに発表ができていた。

発表後に情報の間違いや過不足への発言を司会者が求めた際に、発言がなかったときは、施設見学当日の様子を振り返る話をして、生徒の発言を引き出すようにしたことで、追加の情報が出ることがあった。

最後まで生徒の活動として司会者を中心にチームの振り返りを行いたかったが、教師の時間配分が適切でなかったため教師が進めたが、話し合いの振り返りができたこと自体は良かった。司会や記録の難しさや、情報収集の工夫の必要性などを生徒が気付くことができたことで、次の機会に生かせると思われる。

7 今後の課題

「互恵的な相互依存関係」「対面的なやりとり」「個人としての責任」から一つの求人票を完成させることができたが、それらを行うことと「協力」という意味が、自閉傾向の強い生徒に理解されていたかどうかは疑問である。これについて、当該の生徒には今後の学校生活を通して「協力」が必要な場面では「協力」の意味とその大切さを伝えていく必要がある

生徒からの情報が少なかったときに、教師から情報提供したが、情報量を増やそうとすることと、生徒の発言を待つことでの時間経過を意識しすぎたことで、その量や回数が多かった。より時間に余裕を持ち、生徒に思い出させて引き出したりする方法を考える必要がある。

授業参加に多くの支援が必要な生徒や、不適切な発言がある生徒がいることが分かった上で、教師1名で授業を行うのであれば、より、教材や支援方法についての工夫が必要であった。今回使用した求人票の様式や記録方法について、比較的障害の重い生徒の集団であることを考えると、様式を穴埋め式にするなど簡素化することや、記録が全員で共有できるように教師がホワイトボードに書くことや、導入にPCを使用していたので、それを使って打ち込み、モニターに表示して話し合いを可視化するなどの工夫が必要だった。

最後のチームの振り返りの時間を十分確保できるよう時間配分に留意し、今後の授業を行っていききたい。

※ 授業を振り返って

司会は自ら立候補した生徒だったが、授業等で司会進行する経験の少なさや、当日参観する教師が数名いることからくる照れや緊張で、その進行を危ぶんでいたが、指示のあった進行通りに責任を持って行うことができた。また、進行に対して他の生徒も自分の役割として情報を発表できていたのは、事前の学習の時から指導上の工夫①～③を生徒に意識付けできたからではないかと考える。

6名中4名は司会者を中心に、求人票作りに主体的に参加することができていた。しかし、残り2名の内1名は度々発言の促しを行ったが自分の情報を発表する以外の発言を行えなかった。指導案上ではその生徒が次時の学年全体での学習の際に、本時でできあがった求人票の発表を行うための練習を行い、聞いている他の生徒から意見をもらうことにしていたが、時間がなくなったため割愛してしまったことが発言を少なくした原因である。残りの1名については、実態として言葉を通しての参加が難しい生徒であったため、記録補助として、生徒の発言を教師がメモ書きし、それを視写することで一緒に活動に参加させた。そう考えると、司会も1名で行っていたのを、時間経過をみて、途中から発言が少なかった生徒に切り替えるなど臨機応変な対応が行えていれば、彼の学習参加場面も多くすることができたと思われる。参加者全員がより協同の授業の中に参加できるよう、今後も授業を工夫していきたい。

実践レポート

単元・題材名 (授業名)	パソコンについて学ぶ②(第3回)	生徒	産業科2年生徒5名 農業科2年生徒5名 生活家庭科2年生徒1名 計11名
		場所	格技場
日時	平成29年10月13日(金)3~4校時	指導者	T1:工藤 T2:石田

① 互恵的な相互依存関係

エクセルのソフトを使用し、表とグラフの作成を行っている。前時の授業では、作成方法と文字の大きさや色の付け方などのデザイン方法について、操作方法を学んだ。本時は前時で学んだことを生かして2人1組で協力し、事前に学校祭で意識して取り組むことについて、アンケートを行った結果を表とグラフにまとめることを目標とした。作成した表とグラフを生徒が見やすく、分かりやすくするためにスクリーンに画面を映し出し、どのように操作すべきか生徒に分かりやすく説明ができた。生徒の作業は主に、文字の大きさや色の変化をどのようにするべきかペアで考えながら作業をさせた。

② 対面的なやりとり

作業中に操作方法で分からないことがあった場合は、お互いに教え合って作業するよう促した。ただし、今回の授業では、操作方法を学んでほしいというねらいから、分からない部分を代わりに操作するのではなく口頭で説明し、教え合うこととした。そうすることで、生徒同士で分かるまで教え合っている場面が多く見られた。

③ 個人としての責任

表とグラフを作成する際、どちらを作成するか決めさせた。さらに、表とグラフの色や大きさ、文字のフォントや大きさなどをデザインする人も同時に決めるよう促し、前時で学んだことを活用して作業させた。作業の途中で分からないことがあった場合は、お互いに教え合ってもよいとしているが、口頭での説明のみで、作成とデザインは担当者が最後まで責任をもって行うようにした。その結果、操作で分からない部分は、ペアの一人に近くにいる教員に聞くなどして自分の力で完成させようとする姿勢が見られた。完成後は、お互いの出来具合を見て、さらに工夫し、色や形を変えているグループも見られた。

④ 協同学習スキル

ペアの話をしっかり聞くことで、どんなことで悩んでいるのか、何が分からないのかをペアの人の立場になって聞くようにするため、質問の際はお互いに作業を中断して、意見をしっかり聞き、相手が理解できるように説明することとした。そうすることで、お互いが納得するまで話し合いを行い、質問の内容を理解した上で説明することができていた。

⑤ チームの振り返り

今回の授業では、役割分担、表とグラフの作成、発表の順番で授業を展開した。全グループの発表後にペアごとに、①発表の声の大きさ、②分かりやすく説明できたか、③前時の授業で学んだことを生かして表とグラフを作ることができたか、④ペアが困っているときに分かりやすく教えてあげることができたかの項目で振り返りをさせた。その結果、おおむねよくできたと評価しており、特に④の項目は、ほぼ全ての生徒がよくできたという評価であった。

2 学年 総合的な学習の時間 学習指導案

単元・題材名 (授業名)	パソコンについて学ぶ② (第3回)	生 徒	全学科2年生徒32名
		場 所	視聴覚室
日 時	平成29年10月19日(木)5～6校時	指 導 者	T1:工藤 T2:上村 T3:森山 T4:石田 T5:矢倉 T6:高田

1 授業のねらい

(単元の目標)

- ・パソコンを使って表とグラフを作成することができる。
- ・表やグラフの色、文字の大きさや形を変えて、工夫して作成することができる。
- ・インターネットで正しい情報を知る手段を考えることができる。
- ・間違った情報に騙されてしまったときにどうするか考えて、発表することができる。

(本時の目標)

- ・ネットトラブルに遭わないための考えを一人一人が考え、グループで発表することができる。
- ・グループで出した意見を、一つにまとめて発表することができる。

2 生徒について

- ・話し合いが得意な生徒や、不得意な生徒などの実態に差があり、特定の生徒で話を進め、結論を出してしまう。
- ・時間を設定することで、徐々に意見をまとめることができるようになってきた。

3 指導計画

- 第1回 10月11日 : 学習内容と予定、グループの確認を行う。
- 第2回 10月12日 : 各グループに分かれて表とグラフの作成を行う。
- 第3回 10月13日 : 各グループのペアで表とグラフの作成を行う。
- 第4回 10月18日 : ネットトラブル (ワンクリック詐欺) について知り、対策を考える。
- 第5回 10月19日 : ネットトラブル (個人情報の流出、オンラインゲーム) について知り、対策を考える。(本時)

4 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材教具
導入 15分	・整列・挨拶 ・前時の復習	・農業科Aの日直が号令を行う。 ・ワンクリック詐欺について思い出す。	・グループごとに座るよう指示する。(机を合わせた状態で座らせる) ・プリントを用いてワンクリック詐欺がどんな詐欺だったか思い出させる。	・プリント①

	・ 本時の説明	・ 本時の説明を聞く。	・ 2つのトラブルについて事例をあげ、各グループでトラブルに遭わないための方法を考え、グループで発表し、出た意見を一つにまとめて再度発表することを伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ 個人で考えたことがグループの意見になるのではなく、一人一人が出した意見を互いに協力しあって一つにまとめることで、グループの意見になることを伝える。(①) ・ パワーポイントを使い、活動の流れを視覚的に示す。(配慮⑫) <協同学習の要素や配慮事項> ・ プリントを使い、活動の流れを視覚的に示す。(配慮⑭)	・ パワーポイント
展開 75分	・ SNSについて ・ 個人情報の流出について	・ LINE、ツイッター、フェイスブック、インスタグラムの4つのアイコンを見て何のSNSサイトであるか答える。 ・ 紹介した4つが有名なSNSサイトであることを知る。 ・ SNSの言葉と意味、利便性を知り、必要な言葉をプリントに記入する。 ・ 4つのSNSサイトで、いずれかに載せたプロフィールを見せ、その後どのようなことが起こったのかを知る。 ・ トラブルの原因が個人情報の流出であることを知り、プリントに必要な言葉を記入する。	・ T1は生徒に挙手させ、回答させる。挙手がない場合は、教師自ら回答する。 ・ T1はPPTで紹介したアイコンが有名なSNSサイトであることを伝える。 ・ T1はPPTでSNSの言葉と意味、利便性を伝え、プリント②を配布し、空欄に言葉を書くよう指示する。 ・ T1はPPTで架空のプロフィールを見せ、SNSサイトに載せた結果、どのようなことが起こったのか紹介する。 ・ T1は空欄に言葉を書くよう指示する。	・ PPT ・ プリント② ・ PPT ・ プリント②

	・事例2 個人情報流出について対策を話し合う。	・再度プロフィールを見て、どの部分が個人情報の流出であったか考える。 ・事例の内容を知り、プリント③を受け取る。 ・進め方が分からない生徒はプリント①を見て流れやルールを確認する。 ・事前に担当した役割と別の役割を担当する。 ※生徒Aは役割を固定。 ・①～④の順番で活動を行う。 ・①役割を決める。 ・②自分の考えを用紙に記入する。 ・③自分の考えを発表し、担当者がホワイトボードに記入する。 ・④グループ全員で考えを一つにまとめる。 ・指名されたグループの代表者は、まとめた意見を発表する。	・T1は生徒に挙手させ、発表させる。 ・事例の内容をPPTを使って説明したあと、プリント②を配布。 ・進め方が分からない生徒はプリント①を見て確認するよう促す。 <協同学習の要素や配慮事項> ・プリントを使い、活動の流れを視覚的に示す。(配慮⑭) ・役割決めからグループの意見を出すところまで協力して行う。 ※昨日の役割と別の役割を担当するよう伝える。 ・グループの代表者が発表する時間を指定する。 <協同学習の要素や配慮事項> ・生徒同士で話し合い、役割を分担する。指定された時間までに活動を終わらせるよう言葉掛けする。(③) ・用紙に自分の考えを記入し、グループの仲間に発表するように促し、不適切な場合は、T2～T6が助言を行う。(④、配慮⑨) ・グループで出した様々な意見から、共通する言葉や文に着目して意見を一つにまとめさせる。(②) ・操作方法が分からない場合、お互い教え合うよう言葉掛けをする。(②) ・指定した時間になったら、T1はランダムにグループの代表者を指名し、グループでまとめた内容を発表するよう伝える。 ・T3は発表した意見を前のホワイトボードに記入する。	・PPT ・プリント③ ・プリント① ・プリント③ ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー
--	------------------------------------	---	---	--

・オンラインゲームについて ・事例3 オンラインゲームについて対策を話し合う	・PPTを見てオンラインゲームとは何かを知り、プリントに必要な言葉を記入する。 ・事例の内容を知る。 ・事例2のときの役割と別の役割を担当する。 ※生徒Aは役割を固定。 ・①～④の順番で活動を行う。 ・①役割を決める。 ・②自分の考えを用紙に記入する。 ・③自分の考えを発表し、担当者がホワイトボードに記入する。 ・④グループ全員で考えを一つにまとめる。 ・指名されたグループの代表者は、まとめた意見を発表する。	・T1はPPTを使い、オンラインゲームの特徴を生徒に説明をし、必要な言葉をプリントに記入するよう促す。 ・事例の内容をPPTを使って説明する。 ・役割決めからグループの意見を出すところまで協力して行う。 ※前時の役割と別の役割を担当するよう伝える。 ・グループの代表者が発表する時間を指定する。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・生徒同士で話し合い、役割を分担する。指定された時間までに活動を終わらせるよう言葉掛けする。 (③) ・用紙に自分の考えを記入し、グループの仲間に発表するよう促す。また、不適切な場合は、T2～T6が助言を行う。(④、配慮⑨) ・グループで出した様々な意見から、共通する言葉や文に着目して意見を一つにまとめる。(②) ・操作方法が分からない場合、お互い教え合うよう言葉掛けをする。 (②) ・指定した時間になったら、T1はランダムにグループの代表者を指名し、グループでまとめた内容を発表するよう伝える。 ・T3は発表した意見を前のホワイトボードに記入する。	・PPT ・プリント ・PPT ・プリント ④ ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー
--	---	---	---

整理 10分	・振り返り ・挨拶	・振り返りシートを記入し、本時の活動について自己評価を行う。 ・T1の講評を聞き、ネットは便利な反面、怖い部分が沢山あることを理解する。 ・家庭科の日直が号令を行う。	・振り返りシートを配布し、記入させる。 <協同学習の要素や配慮事項> ・振り返りシートを使い、本時の活動について個人の評価を行う。 (⑤) ・T1は今回の事例を思い出させてネットは便利な反面、怖い部分が沢山あることを伝える。	・プリント⑤
-----------	--	---	---	--

5 指導上の工夫

① 互恵的な相互依存関係

1 グループ6人で構成されている。個人の意見がグループの意見になるのではなく、一人一人が出した意見をさらに議論し合い、協力しあって一つの意見にまとめたものがグループの意見となるようにした。

② 対面的なやりとり

グループで一人1回必ず意見を出した後議論し合い、お互いの考えの違いに気付いたり、教え合ったりすることで様々な意見があることを生徒が知ることができた。まとめるときも、話し合いの得意な生徒が苦手な生徒の意見も取り入れながら、一つにまとめられるように教師が進めた。

③ 個人としての責任

司会、記録、タイムキーパーなどの役割を与え、役割を果たさなければ時間内に発表できないようにした。そのため、自分の役割に責任をもたせ、積極的に行動、発言をし、グループとしての意見をまとめられるように設定した。

④ 協同学習スキル

一人1回は自分の考えた意見を発表する機会を設けており、グループに自分の意見を発表する機会を設けた。また、発表が苦手な生徒が、一言のみの発言にならないよう、発表する前にプリントに意見をまとめて具体的に発表できるようにした。

⑤ チームの振り返り

本時の学習を通して、「振り返りシート」の記入を行わせる。自分の役割は果たせたか、事例に対する自分の考えを1つ以上書くことができたか、グループで意見をまとめるときに、人任せにしないで、意見を出し合うことができかについて個人評価を行う。

6 指導の効果

グループで話し合うときに、一人1回は必ず自分の意見を出して発表する決まりを設けた。また、意見を考えるのが苦手な生徒は、分からないときにSTから助言を受けるように指示した。すると事例を読み返して内容を一緒に整理したり、難しい言葉があったときに質問したりと、自分の意見をまとめて発表することができた。グループで意見を一つにまとめるときは、出た意見をつなぎ合わせたり、新しい文章にしたりして、それぞれのグループで一つにまとめることができ、本時の目標を達成することができた。

振り返りでは、振り返りシートを使い、自己評価をさせた。グループでまとめるときに協力できなかったという評価が少々多かったが、自分の役割を最後まで責任をもってやり遂げたという評価は多く、発表に至るまでの活動でグループに貢献できたという生徒が多かった。

7 今後の課題

一人1回グループで自分の意見を発表する機会を設けたが、意見を出すのみではなく、出した意見に対して質問したり、別の意見を出したりする時間を設けると、もっと具体的な意見を出すことができたと思われる。

また、事例の提示については、ワンクリック詐欺、SNS 上での個人情報の流出、オンラインゲーム上での課金や仲間同士のトラブルの内容を取り上げたが、SNS について全く知らない生徒に対して文章のみの事例だったため、写真を入れたり、SNS サイトのページを出したりして視覚的に分かりやすくすることが必要である。

振り返りでは、個人の反省で終えてしまったので、グループでどうだったか話し合わせて振り返りさせることが必要である。

※授業を振り返って

話し合いの時間を十分にとることができた。今回は、個人の意見をしっかり発表することと、グループで割り当たった役割をしっかりと実行することをねらいとした。前時の授業で同じ流れで作業を行ったが、そのときに学習の目的をはっきりさせることができたこともあり、時間どおりに授業を進めるとできた。

協同学習では、授業の目標を明確にすること、そして目標を達成するためにどんな活動をするのかを明確にすることが重要である。今回は自分の意見を必ず出すことをルールとしたが、自分の考えを出すことが苦手な生徒もいるため、ST の先生方に協力していただきながら意見を出すことができた。一つの活動にかかる時間と活動に対する教員の配慮が、十分に生徒に行き届くようにしていく必要があると感じた。

まとめのレポート

教科・形態名	生活単元学習	部会メンバー	中市、高山、海田、西脇、村瀬、住谷、山木 石田、矢倉、森山、工藤、高田、上村 鐘ヶ江、泉谷、田中(博)、岩城、石川
--------	--------	--------	---

(1) 生活単元学習の指導内容や特性

知的障がい教育（高等部）における生活単元学習は、生徒の特性や学習上の特徴を踏まえ、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服し自立を図ることを目標とした、領域と教科を合わせた指導である。

指導内容については、「2年生になって」、「3年生になって」、「心とからだ」、「生活する力」、「社会人としての暮らし方」の単元を学年ごとに段階的になるように行っている。また、行事単元として「学校祭」を設定している。

授業では、仲間たちと話し合い、学習活動の目的を共有した後、その実現に向けて役割を分担し取り組む活動を多く取り入れている。学年を追うごとに、卒業後を意識したより良く生活していく力や困難な状況を乗り越える力などを身につける学習内容になっている。また、取り扱う題材は、指導段階表に基づき学年の実態に応じて柔軟に対応できることも特徴である。

(2) 生活単元学習における協同学習の授業づくり

1 互恵的な相互依存関係

- ・壁新聞作成では、学級全員で協力して行い、一人一人が役割を果たしながら完成させる。
- ・パソコンの授業において、ネットトラブルに遭わないための方法を考え、グループでまとめる。
- ・性教育に関する内容のクイズにグループ全員で協力して取り組む。
- ・グループで協力して1枚のテストに取り組む。
- ・施設見学で収集した情報から一つの求人票を全員で協力して完成させる。

2 対面的なやり取り

- ・新聞の特徴について、全員で話し合い、挙がった意見をまとめる。
- ・生徒同士で話し合い、壁新聞作成の役割分担をする。
- ・困っている仲間がいる場合には、助け合う。
- ・グループでテストの解答を議論し合う。
- ・施設見学で、事前に担当する生徒を決め、収集した情報を発表する。また、収集した情報に間違いや不足があった場合は、他の生徒が担当生徒に教えたり、情報提供したりする。

3 個人としての責任

- ・生徒同士で話し合い、壁新聞作成の役割分担をする。
- ・壁新聞の作成に向けて、各自が自分の役割に責任をもち、記事をまとめる。
- ・性教育に関するクイズに答えるために、グループの中で役割分担をする。
- ・グループでテストを行う際に、役割を明確にする。
- ・施設見学のまとめの作業で、司会、記録、情報提供（発表）と個々の役割を明確にし、各自が役割を果たすことで、見学した施設の求人票を完成させる。

4 協同学習スキル

- ・個人でまとめたプリントの中から、記事の作成に必要な情報を選ぶ。
- ・個人の意見を否定しない。
- ・仲間の発言をよく聞くことや見たこと、知らせたいことについて必要な情報を確実に伝える。
- ・みんなの考えを一つにまとめて表すことができるように、集中して話を聞き円滑な司会進行ができる。

5 チームの振り返り

- ・壁新聞の進捗状況を確認するとともに、学級全員が本時の活動を振り返る。
- ・振り返りシートを用いて、本時の活動について個人の評価を行う。
- ・性教育に関するクイズに取り組んだ際のチームの正解数や話し合い時の長所と短所を振り返る。
- ・学習を通して、生徒の良かったところを紹介し、次回の単元に生かすようにする。
- ・各自が役割を果たし協力して求人票が完成できたかどうかを、生徒の司会で意見を聞いて確認することや教師の講評を聞くことで振り返る。

(3) 生活単元学習で協同学習を取り入れるメリット

話し合い活動では

- ・一人が一つの意見を出すなど決まりを設定することで、円滑な話し合い活動ができる。
- ・グループで一つの答えを導く活動では、教え合いや相談し合うことが増える。
- ・司会や記録など、役割を明確にすることで、責任を果たそうとする姿勢が育つ。
- ・生徒が司会や記録などの役割を行うことで、自身の取り組みを振り返ることができる。

制作活動では

- ・活動での目標（目的）を提示することで、一人一人が自分の役割を果たそうとする姿勢が養われる。
- ・プリントの保管を責任者に任せることで、用具管理を意識することができる。

(4) 課題点

生活単元学習では、学級単位の学習活動よりも学年単位でのグループ学習を主としている。そのため、生徒の実態差があることから、「一人1回は発言する。」や「役割を明確にする。」など、話し合い活動での細かい決まりを設定する必要がある。また、生徒の話し合い活動を円滑にするために教師がファシリテーターとなることも視野に入れ、検討する必要がある。